令和５年３月10日発行　毎月1回10日発行　第76巻第３号

日本消防

●第22回消防団幹部候補中央特別研修（男性・女性）を開催
●第75回日本消防協会定例表彰式
●第25回全国女性消防操法大会運営委員会・抽選会を開催

3
2023

日本消防　第76巻第3号　公益財団法人日本消防協会

日本消防　CONTENTS

2023 3
Vol.76 No.3

口　絵　令和４年度 第22回消防団幹部候補中央特別研修（男性の部）
令和４年度 第22回消防団幹部候補中央特別研修（女性の部）

巻頭言　「消防団活動の活性化を目指して」……石川県消防協会　会長　鍋谷　有介 …… 1
日消の動き　周年記念大会への思い ……㈶日本消防協会　会長　秋本　敏文 …… 3
東西南北　（宮城県）「自然災害の怖さを忘れず、地域と共に防災力の向上を目指して」
……大郷町消防団　団長　鈴木　安則 …… 4
東西南北　（茨城県）「筑西市を愛し筑西市を守る消防団であるために」
……筑西市消防団　団長　塚田　俊夫 …… 6
東西南北　（愛媛県）「わが町の消防団」……松前町消防団　団長　嘉村　重雄 …… 8
シンフォニー　（岐阜県）「災害に備えた広報活動とドローンによる効果的な後方支援活動」
……池田町消防団　広報活動班　班長　香田　真里 …… 10
第22回消防団幹部候補中央特別研修を開催……㈶日本消防協会 …… 12
第75回日本消防協会定例表彰式……㈶日本消防協会 …… 14
シンポジウム「地域防災力充実強化法制定10年を迎えて」を映像配信……㈶日本消防協会 …… 29
第25回全国女性消防操法大会運営委員会・第25回全国女性消防操法大会の抽選会を開催
……㈶日本消防協会 …… 30
日本消防協会定時理事会・日本消防協会評議員会を開催 ……㈶日本消防協会 …… 33
消防育英会定時理事会を開催……㈶消防育英会 …… 34
少年消防クラブ活動に参加してみませんか …… 総務省消防庁国民保護・防災部　地域防災室 …… 35
消防団等充実強化アドバイザーとの意見交換会を開催しました
……消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室 …… 36
外出先で地震にあったら……総務省消防庁国民保護・防災部防災課 …… 38
一般公開のお知らせ ……消防庁消防研究センター …… 40
令和５年度消防防災科学技術賞の作品募集 ……消防庁消防研究センター …… 41
活動事例　深川消防団・東京消防庁深川消防署「富岡八幡宮」で一斉放水
……東京都　深川消防団・東京消防庁深川消防署 …… 42
うちの名物団員……秋田県、宮城県、石川県、岐阜県、愛媛県、福岡県 …… 43
消防団の広場（福島県）「愛する門司の安全・安心のために」北九州市門司消防団　団長　髙田　年男 …… 46

編集後記

表紙写真説明

「みやぎ蔵王樹氷めぐり」

日本で唯一！
雪上車「ワイルドモンスター号」に乗って、蔵王の大自然が織りなす雪と氷の造形「樹氷」を鑑賞するツアーです。
一面に広がる樹氷原は圧巻です。

写真提供：宮城県蔵王町　農林観光課
https://www.town.zao.miyagi.jp

令和４年度 第22回消防団幹部候補中央特別研修（男性の部）

令和５年２月１日（水）～２月３日（金）

（12頁～13頁に掲載）

令和４年度 第22回消防団幹部候補中央特別研修（女性の部）

令和５年２月15日（水）～２月17日（金）

（12頁～13頁に掲載）

巻頭言

「消防団活動の活性化を目指して」

石川県消防協会　会長　鍋谷　有介

石川県は本州のほぼ中央部の日本海側に位置し、能登半島を含む南北約200㎞、東西約100㎞と縦に長く、北部を能登地方、南部は金沢市を含み加賀地方と称しています。県内のそれぞれの地域に渡って、名所・温泉、美味しい食材や伝統工芸品が豊富な所です。

当協会は昭和22年12月に設立され、昭和61年10月には財団法人化し、公益法人認定法の施行を機に、平成25年４月からは公益財団法人として活動しています。私は令和２年５月から会長に就任し３年目となります。令和４年６月からは日本消防協会の理事を務めています。

本県の消防団の現況ですが、19市町22消防団250分団からなり、総人口約1,117千人に対して、団員数は令和４年10月現在で、5,176人、うち女性団員は207人となっており、人口に対する団員数割合は全国的に見て低い方です。昨年12月に日本消防協会から通知された、令和４年の全国の消防団員数等の調査結果で、単年度の減少数が近年最大となったことが示されましたが、本県においても同様に減少が進んでいる状況にあり、大変危惧しているところです。

こうした中、近年は気候変動等の影響により、これまでとは様相を異にするような短時間で一定地域に集中する大雨、また土石流、地震、大雪等、様々な災害が毎年全国で発生しています。石川県でも能登半島の先端地域で群発地震が継続する中、昨年６月に最大震度６弱の地震が珠洲市を震源地として発生し少なからず被害が生じました。また、８月には記録的大雨により、加賀地方を中心として特に小松市で甚大な被害が発生しました。消防団施設でも詰所・車庫の浸水、車両や資機材の水没など大きな被害が生じました。こうした大雨災害の発生に対し日本消防協会から、いち早く豪雨災害に伴うお見舞いと共に、大規模災害対策支援金の交付をいただき、誠にありがたく被災地域の消防団活動の援助となるよう有効に活用させていただきました。こうした災害の発生は辛いものではありますが、困難な状況への対処に直面し乗り越えた、その経験に基づく教訓や知恵を関係機関と情報共有することで今後の防災体制に活かしていくことも大事なことと考えます。

また、コロナウイルス感染症の影響については３年にもわたる全国的問題であり、皆様におかれてもご苦労の多いことと思います。消防団活動の現場をはじめ、協会事業の執行について大きな影響を受けておりますが、感染対策に十分配慮しつつ、社会情勢も注視しながら可能な限りの事業執行に努めている現状です。

大きな課題である、消防団員確保対策については、これまでも対策事業として団員募集パンフレットの作成・配布、石川県と協力して団員募集統一標語の募集・活用や消防団活動発表会を毎年開催しています。この発表会の入賞者については動画を作成し、石川県のYouTubeチャンネルで配信するなど、消防団活動について一般の方の理解が少しでも進むよう取り組んでいるところです。また、30代までの団員が三分の一にとどまる中、長期的に消防団活動を維持するために重要となっている若い人材の確保対策として、地域の大学の学園祭に参加し消防団活動のPRを行っている消防団もあります。現状では厳しい状況にありますが、継続して取り組んでいくことが必要です。

今後の取組みとしては、令和３年12月に消防庁から、児童生徒に対する防災教育の実施についての助言が発出されており、自らの安全を守る能力を、幼い頃から継続的に育成していく防災教育について、消防団員が積極的に携わっていくことも、将来の団員確保に繋がる一つの有効な方策ではないかと考えます。また、特定の活動、役割を持って参加する機能別団員について、地域の実情に応じて、ドローン操縦やバイク免許など保有する資格の専門性にも着目した組織体制づくり等、消防団活動に参加しやすい取組みを進めていくことも必要ではないかと考えます。

さて、このような中にあって、昨年11月22日に第27回全国女性消防団員活性化徳島大会が、規模縮小とはなりましたが関係者のご尽力のもと、無事成功裡に開催されました。次期、令和５年の開催地は石川県金沢市です。私も徳島大会に参加させていただき、次期開催地代表としてご挨拶させていただきました。

消防団員が減少している中にあっても、女性消防団員を採用している消防団数、女性消防団員数は増加しています。自助・共助等地域の防災、安全・安心への意識の高まりが背景にあるのではないでしょうか。女性団員の活動としては、災害時における後方支援活動、火災予防の普及啓発活動などのほか、火災現場での消火活動など男女問わずに同じ活動を行う消防団もあります。石川大会では、このような全国で活躍する女性消防団員の、日頃の取組みや成果を共有し、また参加された皆さんが交流を深めて今後の活動への意欲向上につながればと願っております。感染症のことも気がかりではありますが、何とか全国の女性消防団員の皆様にご参加いただいて、意義ある大会にしたいと準備を進めておりますので、是非ご参加いただきますよう、石川県へのお越しをお待ちしております。

今年度石川県では、県消防学校の機能強化検討会が開催されており、私も委員として会議に参加させていただきました。学校の現状と課題を踏まえた機能強化の方向性についてとりまとめられたところであり、教育訓練拠点のみならず、総合的な防災拠点としての機能強化など、今後、充実した施設として整備されることに期待を寄せているところです。

いつどこで起きてもおかしくない災害等に対処する我々消防団員は、一人ひとりが自らの使命を常に認識し、最善の組織力を発揮できる体制を維持していかなければなりません。今後とも、地域住民の安全・安心のため日頃からの精進に努めていく所存であります。

結びに、日本消防協会及び都道府県消防協会の益々のご発展と、全国の消防団員の皆様方のご健勝とご多幸、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

日消の動き

周年記念大会への思い

㈶日本消防協会　会長　秋本敏文

「消防団120年・自治体消防制度65周年」記念大会は、平成25年11月25日、東京ドームで開催しました。10年毎開催のこの大会は、次は令和５年、今年開催ということになりますが、令和５年は、新しい日本消防会館の建設を進めており、完成後に向けての準備をしなければならない時ですので、令和５年開催はむつかしいということを数年前から申しあげてまいりました。10年に１回の東京ドーム大会を楽しみにしておられる方々が多数おられますので、申し訳ないとは思うのですが、どうにもなりません。平成25年の大会は、３年以上も前から準備して開催にこぎつけたのですが、この時は、100年以上も昔の腕用ポンプ10台による放水と、その使用したホースをすぐ横の少年消防クラブメンバーが取り扱うＤ級可搬ポンプにつけ替えて直ちに放水するというようなことまでやってもらって、百年の間の装備の発展を４万人近い皆さんの眼の前で披露してもらいました。そのようなことなどいろいろ展開して、日本消防の発展を見て頂きながら、これからの日本消防を考えて頂きたいとの思いのもと、大会の最後は、消防職員と消防団員、若手５人にこれからの日本消防への思いを込めた大会決議を宣言してもらいました。

そのような大会は、新会館完成に向けてのいろいろな動きをするなかでは、申し訳ありませんが、できません。しかし、10年に１回の大会への思いが何の形にもできないのは、残念でもあります。新会館完成後、いくつかの記念イベントを検討していますが、そこでは、自然の流れとして、これからの日本消防のあり方をめぐる議論がなされることになる、いや、近年の「新たな災害環境」ともいうべき世界的な状況のなかでは、消防の中核拠点である新会館においてそのような議論がさまざまな形で行われるようにしなければならないのでしょう。いろいろ考えていますと、10年前の東京ドーム大会では「消防団120年」という名称を最初に掲げましたが、そのスタートである明治27年の消防組規則による消防団の全国的な整備の開始は、日本消防の体制整備の始まりと受けとめて、新会館完成時は「日本消防130年」記念と位置づけながらこれからの日本消防のあり方をさまざまな視点から議論し、一層の充実をめざすということもあり得るかもしれません。

周年記念の大会には、いろいろあり得ますが、いずれにしても、過去を振り返ることにとどまらない、将来への発展構想をみんなで考える機会にしなければならないでしょう。新日本消防会館完成時はどうするか、みんなで相談しなければなりませんね。

東西南北 宮城県

「自然災害の怖さを忘れず、地域と共に防災力の向上を目指して」

大郷町消防団　団長　鈴木　安則

1　大郷町の紹介

大郷町は、宮城県の中央に位置し、仙台市から北に車で約30分の距離にあります。

人口は、令和５年１月１日現在7,728人で、面積は、82.01㎞、町の中央部を一級河川吉田川が西から東に流れており、自然に恵まれた豊穣の地です。

吉田川の周囲には、優良な田園地帯が広がり、気候も温暖で過ごしやすく恵まれた環境にあります。春には田植え後の豊かな緑色、夏にはホタルが舞い、収穫期の秋には黄金色のじゅうたんが夕焼けに映え、白鳥の訪れが冬を知らせてくれます。

大郷町

2　大郷町消防団の概要

大郷町消防団は、団長１名、副団長２名の団本部以下、４分団22部編成で、令和５年１月１日時点の団員数は267名です（条例定数310名）。

運用資機材は、22部各部に可搬ポンプを配備、また軽自動車型可搬ポンプ積載車を４分団各分団に１台ずつ計４台配備し、運用しています。

大郷町においても少子高齢化の影響で、団員のなり手が減少している状況にはありますが、新入団員の勧誘も団員が率先して行い、団長以下一丸となって活動に取り組んでいます。

3　大郷町消防団の活動

大郷町消防団の活動は、１月の出初式に始まり、６月の総合演習や、水防訓練などの各種演習や訓練を行っています。また、町内各地域の自主防災組織や地域住民と合同で防災訓練を行い、防災力の向上と防災意識の高揚に努めています。

11月には、黒川消防署大郷出張所にご協力いただき、各部のポンプ小屋及び運用

消防資機材管理状況査察

資機材の状況を確認する消防資機材管理状況査察を消防署と合同で行っています。

そのほかにも、各部において地域の巡回や、町の夏まつりの警戒警備、年末年始特別警戒などの活動を行っています。

4　令和元年東日本台風を経験して

大郷町の中央を西から東に流れる吉田川は、水害が多い川で、昭和61年８月の８.５豪雨災では、町内三十丁地区で堤防が決壊し、167棟が床上、床下浸水の被害を受けました。また、平成27年の関東・東北豪雨では、上流に位置する大和町で堤防から越水し、広範囲で浸水被害が発生するなどの被害が発生しました。

令和元年10月12日から13日にかけ、宮城県に接近した令和元年東日本台風（台風19号）でも、県内で総降水量319㎜を記録し、吉田川の水位も、堤防の計画高水位を超える9.92ｍを記録。町内中粕川地区で堤防が決壊し、184棟の家屋が流失・浸水被害を受けました。

消防団は、台風が接近する10月12日のお昼ごろから、地域の自主防災組織と連携し、浸水想定区域内の住家を訪問し、避難を呼びかける活動を行いました。また、堤防が決壊した後は、町や消防などの関係機関と連携し、逃げ遅れた住民の救出活動を行いました。

こういった活動により、堤防が決壊するという甚大な被害にあっても、住民、団員共に負傷者や死亡者を出すことなく、人的被害をゼロにすることができました。

人的被害をゼロにできた最大の要因は、日ごろから消防団と地区の自主防災組織等が合同で防災訓練を行ってきた成果であったと考えます。

大郷町消防団は、令和元年東日本台風時の活動により、防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞することができました。

令和元年東日本台風の被害

5　終わりに

近ごろは気候変動の影響もあってか、これまでは想像もできなかったような自然災害が、毎年のように全国各地で発生する状況にあります。

大郷町においても、令和４年７月15日の夜半にかけ、降水量が１時間に100㎜を超す豪雨を経験し、道路の冠水や土砂災害などの被害がありました。

風水害の他にも、平成23年に発生した東日本大震災や令和４年３月に発生した福島県沖地震など、甚大な自然災害が発生しています。

このような状況においても、団員や住民一人ひとりが、日ごろから防災意識を高め、いざという時には早めに避難することを心がけることができれば、災害が発生したとしても、被害を少なく抑えることができると考えます。

大郷町消防団は、今後も「自分の地域は、自分で守る」という理念のもと、地域住民や町、消防署などの関係機関と連携し、防災力の向上と防災意識の高揚に努めてまいります。

東西南北
茨城県

「筑西市を愛し筑西市を守る消防団であるために」

筑西市消防団　団長　塚田　俊夫

1　筑西市の紹介

平成17年３月28日に、下館市、関城町、明野町、協和町の１市３町が合併し、筑西市が誕生しました。筑西市は、茨城県の西部に位置し、南北に一級河川の鬼怒川、小貝川、勤行川が流れ、肥沃な田園地帯が広がっています。道路体系は、市のほぼ中心を東西方向に国道50号、南北方向に国道294号が整備され、この２路線が交差した部分が市の中心部になります。さらに石岡市方面やつくば市方面、古河市方面に、県道が放射状に整備されています。鉄道は、市の代表駅である下館駅から、東西にJR水戸線が走り、南には取手市まで関東鉄道常総線、北には栃木県茂木町まで週末にSL列車が運行されている真岡鐵道真岡線により結ばれています。

また、陶芸家として初めて文化勲章を受章された板谷波山や、洋画家である森田茂をはじめ、多くの作家を輩出する芸術の街としても知られています。

2　筑西市消防団の概要

前述の１市３町合併に伴い、新たに筑西市消防団が誕生しました。

条例定数876名、団本部、６中隊43分団、女性分団、機動部隊で組織し、市内44か所に消防団車庫詰所を設置し、広報車３台、消防ポンプ車43台、救助資機材搭載車１台を有し「自分たちのまちは自分たちで守る」という理念のもと、日々市民の皆様の生命･財産を守るため活動しています。

3　筑西市消防団の活動

主な活動は、年始の出初式から始まります。出初式では、各種点検や表彰伝達を行い、式典終了後には勤行川へ移動し、43の分団と機動部隊の44車両による一斉

2022ちくせい花火大会

令和５年筑西市消防団出初式放水訓練

平成30年度操法訓練

放水訓練が行われます。春の火災予防運動週間では、消防団が各地域に分かれて、市内一斉に火災予防の広報パレードを行います。女性消防団も、広報車を使用し、午前、午後、夜間と３班に分かれて広報活動をします。そして、秋の火災予防運動週間では、広報活動に合わせて、車庫詰所点検も実施し、啓発活動を行っています。

また、消防団の訓練として、新入団員の基礎訓練、夏季・冬季訓練を実施しています。いずれも筑西消防署の協力のもと、消防団員としての礼式・規律を学び、機械器具操作の確認をし、放水訓練を行っています。加えて、例年10月に開催される操法競技大会に向けて、消防ポンプ操法の技術の向上と団結力を養うために、操法訓練を行っています。筑西市では、昭和61年の台風10号がもたらした豪雨による小貝川の氾濫被害、平成27年の関東・東北豪雨による鬼怒川の溢水被害、令和元年東日本台風による溢水被害と、多くの水害がありました。これらの経験から、出水期前には水防訓練も行い、地域住民の安心安全な生活を守るため、筑西市消防団は、火災だけではなく、水災への意識も十分に持ち続け、訓練に励んでいます。

4　団員確保に向けた取り組み

平成23年に「消防団協力事業所表示制度」の導入をはじめ、平成30年に「消防団応援の店制度」を導入しました。現在、11か所の消防団協力事業所と、64か所の消防団応援の店があります。協力事業所や応援の店には消防団員募集のポスターを掲示していただいたり、団員とその家族に各種サービスを提供していただいたりと、消防団に対して厚くサポートしていただいております。地域の皆様の協力をいただきながら、翌年の新入団員の入団に向けて地元自治会と連携し、住民への勧誘や声掛けを行っています。

5　おわりに

筑西市の人口は年々減少しており、それと比例し、消防団員数も減少傾向にあります。しかしながら、地域住民の安心安全のためには、消防団員数の維持、そして意識・技術の向上は必要不可欠です。我々筑西市消防団は、郷土を愛し、地域から信頼される消防団となることを胸に、日々防災力の向上に努めてまいります。

東西南北
愛媛県

「わが町の消防団」

松前町消防団　団長　嘉村　重雄

1　愛媛県松前町の紹介

松前町は、石鎚山系に端を発した一級河川重信川を境にして県都松山市に隣接し、道後平野の西南部に位置しています。西は伊予灘に面し、南は伊予市を隔て四国山脈が望め、年間を通して温暖な気候となっております。現在では、人口３万人余、占有面積約20k㎡と比較的小さな町ではありますが、豊富な水と肥沃な土地を活かした農業をはじめ、工業、商業のバランスのとれた町です。

2　松前町消防団の紹介

松前町消防団は、昭和30年に発足し、各地区９分団から形成され、令和４年12月現在301名が消防団員として、消防組織法の任務規定に基づき活動しています。消防車両は、ポンプ付き消防自動車１台、可搬ポンプ積載車22台を有しています。

3　松前町消防団の活動

松前町消防団は毎年４月１日に消防団総会を行い、新入団員及び幹部の辞令を交付し、消防団の活動がスタートします。その後、新入団員には消防の基礎となる研修を実施し、基本的な行動を身につけます。

幹部には、消防団員の指導的立場であることを認識することと、次の幹部を育成するという目的で研修を行っています。また、梅雨時期の水防活動に備えて５月に水防訓練を実施しています。この訓練は、近年多発する水災害に備え、各工法、基本結索を全団員で行っています。

松前町でも平成29年に発生した台風29号により、重信川が戦後最高水位を記録し、避難勧告が発令される事態になりました。これにより、床上浸水、床下浸水等の被害が散見され甚大な被害が生じま

松前町消防団　出初式分列行進

松前町　消防団合同訓練

した。これを教訓に平成30年以降、自主防災組織との連携を図り、より高度な技術を身につけるため防災エキスパートに指導を仰いでいます。結果、全団員が、水災害への考え方が変化し、自分たちで松前町を守るという気持ちが強くなっていると実感しているところであります。

11月には、愛媛県消防団広域相互応援協定に基づき、市街地の延焼火災を想定した火災防御訓練を行いました。この訓練は、大規模災害に備え、5市町が集結し、広域協力体制の強化と被害の軽減を目的に実施されました。

近々発生が懸念される南海トラフ地震等の活動の場において、他市町の消防力の確認と顔が見える関係に繋がり、実りの多い訓練であったと感じているところであります。

4　消防団員確保の取組

現在松前町消防団員は、310名の定数に対し、9名の欠員が出ています。そこで、未来の消防団員を確保するという強い気持ちを持ち、高等学校に赴き消防団をPRしています。内容ですが、消防団員の活動を紹介し、活動の一部であるホース延長、収納を実際に行ってもらいました。生徒の取組も積極的で、未来の消防団員像が容易に想像できる事業の一つだと感じているところであります。

5　おわりに

現在、松前町でも消防団員が減少傾向にある中、機能別消防団員の導入等を考えている所であります。また、近い将来人口減少の波が訪れることでしょう。しかし、消防団員の熱い心意気と定数を減らす事は許されません。

いかなる大災害が発生したとしても、「強さ」と「しなやかさ」を持った地域に信頼される松前町消防団であるために。

シンフォニー（岐阜県）

「災害に備えた広報活動と ドローンによる効果的な後方支援活動」

池田町消防団　広報活動班
班長　香田　真里

1　池田町消防団広報活動班発足

池田町は濃尾平野の最北端に位置し、西には町の総面積の３分の１を占める池田山を背負い、東には1級河川の揖斐川やかつて天井川であった杭瀬川などの河川がある自然豊かな町です。その一方、水害や土砂災害の危険性のある町であるため、池田町消防団は古くから災害対応にも尽力してきた歴史があります。

そのため、平時から災害に備えることが重要であることから、平成31年度より女性消防団員で構成される広報活動班が発足され、火災予防や防災の啓発、消防団活動のPR活動を行っています。発足当時は４名でスタートし、現在では６名で活動を行っています。

2　広報活動班の活動

①　防火訪問

独居世帯の高齢者宅を訪問して、現在の健康状態や緊急連絡先等の確認だけでなく、火の元や消火設備を重点的に確認しています。

②　町イベントでの消防団PR

町主催のお祭りなどの機会に、消防団活動をPRするためのブースを設けて、消防団をより身近なものと知っていただくよう広報しています。

③　防災研修

災害時に町の災害対策本部の一員になれるよう、災害時の初動体制の確認や防災備蓄品の取り扱い訓練などを行っています。

防火訪問の様子

防災備蓄品の取り扱い研修

3　広報活動班にドローンを導入！

先に紹介した活動とは別に、今年度は広報活動班にドローンを導入しました。ドローンの導入のきっかけは、消防団活動のPR用にドローンで空撮できないか検討したことでした。ドローンの性能や制度について調べるうちに、災害時のドローンの有効性に気づきました。そこで広報活動班の新たな取り組みとしてドローンの導入について団本部に要望したところ、岐阜県の補助制度もあって、ドローンを導入することができました。

ドローンの飛行訓練

4　ドローンの訓練開始。運用に向けて

ドローンの操作には操縦資格や機体の登録など、飛行するまでにさまざまな準備が必要です。飛行に関しては基本のライセンスに合わせて、目視外や夜間でも飛行できる研修を受講し、操作技術を習得しました。

運用する体制を整え、消防団の合同機動演習にドローン隊として訓練に参加したところ、上空からの映像は、火災現場での状況把握に非常に有効であると消防署や消防団本部から評価をいただきました。過日あった行方不明者の捜索活動にも参加し、３月には林野火災演習にも参加を予定しており、活動の幅を広げているところです。

機動演習に参加

5　終わりに

コロナ禍により２年以上活動が制限されていましたが、徐々に本来の広報活動が行えるようになってきました。平時の火災予防や防災の啓発は、目に見えるものではないので効果が分かりづらいですが、大災害はいつ発生するかわかりません。そのための備えについて広報して、地域に貢献できるようにしていきたいと思います。また、新しく導入したドローンを活用して、効果的な後方支援活動を行っていきたいと思います。

上空から撮影した訓練の様子

第22回消防団幹部候補中央特別研修を開催

㈶日本消防協会

（公財）日本消防協会は、第22回消防団幹部候補中央特別研修として、男性消防団員の部は２月１日（水）から２月３日（金）、女性消防団員の部は２月15日（水）から２月17日（金）、各部３日間開催しました。

この研修は、将来消防団の幹部として活躍が期待される団員を対象に実施するもので、全国から総勢186名（男性消防団員の部111名、女性消防団員の部75名）が参加しました。

開講式では、日本消防協会秋本会長の挨拶後、研修生総代からの宣誓により研修が始まり、研修内容は、消防団の活動事例紹介、災害情報、危機管理、都市防災、避難所運営などの講義や、女性消防団員の部では、東京都復興記念館を視察しました。

課題討議では各部５つのテーマを定め、各部10班に分かれて研修期間中を通じて討議し、研修最終日には討議してきた課題について発表を行い、問題意識の共有を図るとともに消防団活動についての意見交換も行われ、有意義な研修となりました。

研修者からは、「他の地域の実情を知るとともに志を共にする仲間と出会えた。」「講義で得た知識を自分の団に持ち帰り今後の活動に役立てたい。」などの感想が寄せられました。

男性消防団員の部

総代による宣誓
宣誓者：秋田県鹿角市消防団　小館分団長

研修風景

女性消防団員の部

総代による宣誓
宣誓者：熊本県宇城市消防団　坂本分団長

東京都復興記念館視察研修

第22回消防団幹部候補中央特別研修　講義科目

男 性 の 部

内　　容	講　　師
講　話	日本消防協会　会長　　秋本　敏文
消防団を中核とした地域防災力の充実強化	消防庁　国民保護・防災部　地域防災室長　　佐藤　茂宗
活動事例	千葉県館山市消防団　団長　　吉野　隆志
火災対策等	東京理科大学総合研究所　教授　　小林　恭一
危機管理	Blog防災・危機管理トレーニング　主宰　　日野　宗門
情報と地域	国士舘大学　防災救急救助総合研究所　教授　　山﨑　登
課題討議発表・講評	消防庁　国民保護・防災部　地域防災室　消防団専門官 村上　元

課題討議テーマ
・若年層の団員確保対策について
・サラリーマン化が進む中での効果的な活動方策について
・消防団の訓練のあり方について
・消防団活動の問題点と解決策について
・消防団を中核とした地域防災力の充実強化対策について

女 性 の 部

内　　容	講　　師
講　話	日本消防協会　会長　　秋本　敏文
視　察	東京都復興記念館
在日米海軍消防隊で危機管理の違いに目覚め学んだこと	一般社団法人リスクウォッチ　顧問　　長谷川　祐子
消防団を中核とした地域防災力の充実強化	消防庁　国民保護・防災部　地域防災室長　　佐藤　茂宗
女性のパワーを生かし災害にレジリエントな地域をつくる	兵庫県立大学大学院　減災復興政策研究科　教授 阪本　真由美
女性消防団員の活動とこれからの課題	株式会社　防災士研修センター　取締役業務部長 谷口　由美子
多様性	国士舘大学　防災・救急救助総合研究所　教授　　山﨑　登
課題討議発表・講評	消防庁　国民保護・防災部　地域防災室　消防団専門官 村上　元

課題討議テーマ
・女性消防団員の役割について
・女性消防団員の確保対策について
・女性消防団員による新たな消防団活動の展開について
・消防団活動の問題点と解決策について
・消防団を中核とした地域防災力の充実強化対策について

課題討議の様子

第75回日本消防協会定例表彰式

㈶日本消防協会

令和５年３月３日（金）午前11時30分から、ニッショーホール（東京都港区東新橋1-1-19）において、第75回日本消防協会定例表彰式を挙行いたしました。

表彰式は、新型コロナウイルス感染症対策のため人数を制限しての挙行となりました。

特別来賓は、尾身朝子総務副大臣、前田一浩消防庁長官、全国消防長会清水洋文会長がご出席され、式典は、日本消防協会旗入場から始まり、続いて日本消防協会 大濱進彦副会長の開式の辞、国歌斉唱（黙唱）、消防殉職者への黙祷、日本消防協会 秋本敏文会長の式辞と進み、特別表彰「まとい」、特別功労章の順に秋本会長から表彰状等が授与され、続いて、優良消防団（表彰旗）、優良消防団（竿頭綬）、功績章、精績章、勤続章、優良婦人消防隊員（功績章）、永年勤続職員表彰の順に表彰が行われました。

なお、優良婦人消防隊（表彰旗）の代表受賞団は都合により、欠席されました。

全ての表彰授与ののち、来賓祝辞として松本剛明総務大臣の祝辞を尾身朝子総務副大臣からいただき、その後、受賞者代表として青森県消防協会 下山正彦会長が謝辞、日本消防協会 古山大功副会長が閉式の辞を宣言し閉式しました。

式次第

(1) 開式
(2) 国歌斉唱
(3) 消防殉職者に対する黙祷
(4) 式辞
(5) 表彰
- 特別表彰「まとい」……10団
- 特別功労章 ……10名
- 優良消防団(表彰旗) ……35団
- 優良消防団(竿頭綬) ……87団
- 功績章 ……911名
- 精績章 ……2,191名
- 勤続章 ……9,237名
- 優良婦人消防隊(表彰旗) ……6隊
- 優良婦人消防隊員(功績章) ……9名
- 永年勤続職員表彰 ……10名

(6) 祝辞
(7) 受賞者代表謝辞
(8) 閉会

日本消防協会旗入場

開式の辞　日本消防協会　大濱進彦副会長

式辞　日本消防協会 秋本敏文会長

特別表彰「まとい」授与

特別功労章授与

表彰旗、竿頭綬、功績章、精績章、勤続章
優良婦人消防隊員功績章、永年勤続職員表彰授与

第75回　日本消防協会定例表彰名簿

特別表彰まとい　10団

都道府県名	消防団名
北海道	岩見沢地区消防事務組合 岩見沢消防団
宮城県	東松島市消防団
秋田県	小坂町消防団
群馬県	沼田市消防団
栃木県	下野市消防団
三重県	鈴鹿市消防団
大阪府	柏原市消防団
徳島県	東みよし町消防団
福岡県	糸島市消防団
熊本県	御船町消防団

特別功労章　10名

都道府県名	役職名	氏名
青森県	青森県消防協会会長 鶴田町消防団団長	下山　正彦
秋田県	秋田県消防協会会長 美郷町消防団団長	髙橋　正尚
埼玉県	埼玉県消防協会会長 所沢市消防団団長	森田　耕一
千葉県	千葉県消防協会副会長 銚子市消防団団長	芝岸　弘
石川県	石川県消防協会会長 金沢市第三消防団団長	鍋谷　有介
奈良県	奈良県消防協会会長 香芝市消防団団長	西里　利昭
鳥取県	鳥取県消防協会会長 日南町消防団団長	木山　宗司
徳島県	徳島県消防協会副会長 東みよし町消防団団長	河野　良雄
熊本県	熊本県消防協会会長 熊本市消防団団長	山口　純一
宮崎県	宮崎県消防協会副会長 延岡市消防団団長	荒木　清

優良消防団（表彰旗）　35団

都道府県名	消防団名
北海道	滝川地区広域消防事務組合　赤平消防団
北海道	大雪消防組合　東川消防団
青森県	平川市消防団
岩手県	久慈市消防団
宮城県	美里町消防団
秋田県	湯沢市消防団
山形県	遊佐町消防団
福島県	福島市消防団
新潟県	関川村消防団
東京都	三宅村消防団
神奈川県	横浜市加賀町消防団
埼玉県	富士見市消防団
群馬県	太田市消防団
茨城県	牛久市消防団
栃木県	塩谷町消防団
山梨県	北杜市消防団
長野県	小諸市消防団
石川県	川北町消防団
愛知県	名古屋市日比津消防団
岐阜県	美濃加茂市消防団
大阪府	岬町消防団
兵庫県	西脇市消防団
奈良県	大和高田市消防団
滋賀県	高島市消防団
和歌山県	古座川町消防団
島根県	隠岐の島町消防団
徳島県	鳴門市消防団
香川県	観音寺市消防団
愛媛県	鬼北町消防団
長崎県	南島原市消防団
福岡県	朝倉市消防団
佐賀県	白石町消防団
熊本県	津奈木町消防団
宮崎県	日向市消防団
鹿児島県	さつま町消防団

優良消防団（竿頭綬）

都道府県名	消防団名
岩手県	北上市消防団
岩手県	陸前高田市消防団
岩手県	野田村消防団
宮城県	蔵王町消防団
宮城県	利府町消防団
秋田県	三種町消防団
秋田県	男鹿市消防団
秋田県	美郷町消防団
山形県	新庄市消防団
山形県	庄内町消防団
山形県	寒河江市消防団
福島県	平田村消防団
福島県	金山町消防団
福島県	大熊町消防団
新潟県	阿賀野市消防団
新潟県	津南町消防団
新潟県	粟島浦村消防団
東京都	品川消防団
東京都	葛西消防団
東京都	稲城市消防団
神奈川県	川崎市中原消防団
神奈川県	小田原市消防団
神奈川県	湯河原町消防団
埼玉県	熊谷市消防団
埼玉県	比企広域市町村圏組合　ときがわ消防団
群馬県	安中市消防団
群馬県	長野原町消防団
千葉県	習志野市消防団
茨城県	土浦市消防団
茨城県	坂東市消防団
茨城県	鉾田市消防団
栃木県	小山市消防団
栃木県	栃木市消防団
栃木県	那須烏山市消防団
山梨県	甲斐市消防団
山梨県	富士川町消防団
長野県	諏訪市消防団
長野県	塩尻市消防団
長野県	阿智村消防団
石川県	宝達志水町消防団
石川県	野々市市消防団
富山県	南砺市消防団
富山県	朝日町消防団
愛知県	名古屋市千種消防団

都道府県名	消防団名
愛知県	名古屋市比良西消防団
愛知県	名古屋市稲西消防団
愛知県	名古屋市守山消防団
岐阜県	輪之内町消防団
岐阜県	本巣市消防団
岐阜県	美濃市消防団
大阪府	忠岡町消防団
大阪府	能勢町消防団
兵庫県	神戸市水上消防団
兵庫県	猪名川町消防団
兵庫県	相生市消防団
奈良県	高取町消防団
奈良県	平群町消防団
滋賀県	近江八幡市消防団
滋賀県	多賀町消防団
和歌山県	日高町消防団
和歌山県	太地町消防団
島根県	西ノ島町消防団
徳島県	小松島市消防団
徳島県	三好市池田町消防団
香川県	高松市消防団
香川県	琴平町消防団
愛媛県	松前町消防団
愛媛県	西予市消防団
愛媛県	四国中央市消防団
長崎県	松浦市消防団
長崎県	川棚町消防団
長崎県	佐々町消防団
福岡県	築上町消防団
福岡県	うきは市消防団
福岡県	大任町消防団
佐賀県	多久市消防団
佐賀県	神埼市消防団
佐賀県	太良町消防団
熊本県	水上村消防団
熊本県	小国町消防団
熊本県	相良村消防団
宮崎県	綾町消防団
宮崎県	川南町消防団
宮崎県	美郷町消防団
鹿児島県	姶良市消防団
鹿児島県	東串良町消防団
鹿児島県	瀬戸内町消防団

87団

功績章　911名

北海道

遠田　満憲
山陰　治仁
戸出　勝敬
中田　浩一
井口　好悦
土田　和豊
岩谷　英春
稲葉　初雄
中田　光則
白木　昭志
中井　勇人
佐藤　　博
小林　清秀
近江　基輝
佐藤　隆史
長井　俊藏
宮嶋　礼治
長谷川　宏文
不破　泰志
藤原　達雄
野本　　輝
髙木　弘美
津村　章廣
石田　哲郎
小島　文博
渡部　　健
三島木　洋一
石山　　巌
鹿野　浩司
末田　昌隆
粕田　かおる
秋元　小夜子

青森

佐藤　喜美雄
田澤　順造
秋田　欣人
久保　順一
舘田　行雅
成澤　清志
水合　寿一
蠣崎　　真
坂井　　稔
内條　都雄
明石　繁光
下佐　賢悦
戸嶋　志郎
佐藤　松男
大湯　春美
成田　耕英
山本　良寛
赤平　喜美子

岩手

佐々木　幸治
菊池　録郎
里舘　功美
久保　誠一
八重樫　　仁
佐々木　　亨
千葉　　章
千葉　　正
細谷　隆夫
佐々木　忠臣
千葉　敏彦
後藤　義幸
髙橋　明彦
﨑山　清一
及川　忠則
田中　新吉
眞下　　勇
府金　義明
谷村　　歩

宮城

荒木　秀雄
半澤　正勝
櫻井　俊文
佐藤　茂吉
川嶋　松治
川村　照男
佐藤　　隆
菊池　淑郎
鈴木　上二
櫻井　文則
千葉　秀夫
二俣　　貢
田中　敏郎
熊谷　　繁
岡　　義憲
石坂　信義
佐々木　繁己
千葉　栄一
松本　久一郎
菅井　賢治
武澤　一史
芳賀　裕子

秋田

渋谷　照幸
佐藤　憲一
長岐　邦雄
渡邊　正人
板倉　吉孝
齊藤　英一
松橋　　稔
安田　勝也
斉藤　広幸
東海林　　優
三浦　　仁
照井　正明
田村　健郎
柴田　克弘
佐藤　洋幸
伊勢　睦子
大庭　久志
押切　吉明

山形

鈴木　傳勇
荒井　政博
土屋　博幸
齋藤　文彦
清野　憲志
菅野　喜章
松浦　広昭
西塚　和喜
石川　直樹
信夫　秀樹
笹原　　透
矢口　政昭
藤澤　英明
加地　浩昭
市川　愼一
大西　一憲
八木　健一
今野　貞治
庄司　　仁
齋藤　直道
小野寺　　寛
小池　繁春
鈴木　　肇
日下部　　進
孫田　智子

福島

佐藤　良以
栗原　義貴
西山　敏彦
佐藤　　弘
佐藤　浩幸
遠藤　政信
鈴木　朝裕
柳田　　篤
佐藤　輝男
古河　善男
木村　清一
安瀬　武仁
先﨑　宏之
星　　一樹
佐藤　友彦
渡邊　家伸
芳賀　貴子
菊池　敏晴
猪合　雅樹
小林　　薫
吉野　貴之
井上　康弘
杉山　英世
大橋　健一
渡部　一夫
小池　光明
木村　彰央
三瓶　一也
江尻　義伸
廣畑　寿穂
鈴木　省吾
佐々木　恵寿
佐藤　　衛
髙山　晴美

新潟

清水　義仁
藤田　市男
佐藤　俊一
桒原　利宏
徳田　健一
井島　勝昭
星野　雄一
藤田　　久
西野　智之
山田　　昭
渡邊　勝博
中村　　敏
小林　淳一
渡邊　幸弘
近藤　　博
山数　幸作
近藤　満寿夫
佐藤　一豊
山之内　和之
阿部　博文
江口　秀司
柳　　直行
押木　　勤
中村　和成
廣川　　栄
齋藤　幸雄
本保　　司
瀬賀　　誠
内山　康博
岩﨑　良浩
長谷川　幸弘
山口　信一
吉田　和浩
間島　和美
鈴木　一郎
木藤　幸三
伊藤　喜代子

東京

中川　健次
平山　　忠
地藏　祐久
鈴木　弘美
藤田　雅巳
鈴木　利彰
野村　敏子
武内　広光
喜多村　周造
植竹　浩司
本橋　靖雄
渡邊　　正
矢崎　敏央
今中　康晴
飯田　　恒
森窪　宏和
小川　晴康
小宮　光夫
浦川　忠義
澤田　信二
丹生　範仁
髙取　義広
奥山　敏仁
勝見　吉信
小松　武人
藤澤　　潤
田中　ひろみ
石山　一美

神奈川

西山　幸成
川田　啓一郎
髙堰　　徹
瀧本　正一
山田　雄介
相原　賢一
矢崎　吉一
瀬戸　　茂
小宮　　勉
三浦　　実
穂谷　賢一
村上　健二
卯月　秀明
井梅　　均
永井　宏文
山口　幸一
野口　淳一
荒井　春正
大津　正井
岩城　洋子

埼玉

馬場　修平
島根　東也
島田　智之
青木　孝行
吉田　　茂
小石川　康彦
宇津野　昌利
染谷　宗一
石井　三男
尾川　昌充
馬場　信義
根本　裕二
鈴木　健之
小池　恭一
大倉　仁司
廣瀬　和好
市川　一城
渡邊　義之
大橋　勝己
平野　修一
新井　裕幸
堀池　稔子

群馬

峯岸　藤喜
小野　　誠
佐藤　欽一
渡邊　義孝
鈴木　伸弘
中里　明義
坂田　　功
清水　　要
町田　真一
桑子　憲司
将田　　茂
金子　憲司
齊藤　雄一郎
田村　　淳

千葉

中島　賢治
金指　昌宏
石井　　亘
岩井　寿久
岩田　美佐男
中村　正光
髙橋　光好
金子　智一
浅海　喜康

熊川浩一郎
木村博明
伊藤浩司
高木繁
西溪寛
澤木貢
金子浩章
神尾利幸
加瀬紀芳
戸村哲也
小倉光夫
佐瀬友唯
小倉弘業
関野富男
佐々木隆夫
高地正道
吉野利幸
吉野隆志
野村利弘
杉山秀知
池田秀与
佐久間誠
金子たつみ

茨城

小泉大造
林英樹
櫻井健
矢口一彦
根本忠和
大森勉
大高勝彦
斉藤栄一
榎戸正
菊本忠幸
藤田佳史
永島治一
金子隆彦
古手泰貴
木内博三
鈴木和彦
鈴木和徳
堂川直紀
秋山龍司
五月女謙次
大川訓
寺田孝行
内田昭彦
坂本操
根本明
清水裕美

栃木

小太刀昭
沼尾和則
大橋昭一
高山誠
飯島寿亮
横山武男
福田浩
塩田憲司
小林次雄
菅野裕之
金枝宣孔
戸熊功
石塚健司
谷田幸政
伊藤環
杉山一朗
平山知子

山梨

長田祐二
萩原勝彦
伊東仁
保坂守
北原久
森田忠
田中一史
加藤仁
雨宮剛
三井潤一
渡邊明雄
尾形善光
白川幹男
野武健一
田中三貴子

長野

新津政雄
中島義房
新海正博
原田孝
市川健
丸山貴弘
吉見雅史
小池敏彦
御子柴健朗
蜷川清人
北澤隆
山口薫
滝沢功
熊谷祐太
塚田賢一
石原幸伸
上田篤志
笹川政義
田近哲也
登玉慎二
寺田龍美
山本吉人
田近浩幸
續麻紀由
本庄富雄
片瀬正樹
武田望
小宮山敦史
持田敏宏
山上卓秀
青柳朝美
小林智
鷲巣志保
小澤悦子

福井

松井利夫
和田達昭
池田義則
氏家鉄也
池端正仁
高木伊佐男
松井繁明
西山八重子

石川

小林彦幸
黒瀬純一
寺岸篤
谷口英夫
舟木城治
濵出泰治

富山

小竹徹
盛田康稔
大角一紀
久々視
茶木忠則
扇一孝明
寺松雄二
寺山祐一
亀澤信博
山田聖
長谷川博子

三重

田木英作
西松武彦
加藤丈雄
徳井芳樹
淺生哲也
木下成弘
小山俊治
川中和久
中田賢
中川雅之
森本智也
東登志夫
川本正豪
奥村玲子

愛知

脇田弘美
橋岡敦司
伊藤和成
奥村義夫
新美利夫
立松徳治
村上秀輝
成田友和
鈴木康彦
阿部俊二
羽賀良徳
松本敬一
小芦尚久
稲垣政文
神谷雄一
内田竹思
安藤彰洋
小木曽巧人
福岡拓也
中根盛仁
川合雄造
伊藤彰良
福永清文
須井明範
佐野貴紀
伊藤学
江本利光
須田美奈子

静岡

西川正和
辻洋幸
溝田重治
遠藤雅巳
坂部明
稲葉朗宏
天野信彦
山田誠
花村肇
竹下直之
河合修
杉本幸三
山下芳則
土井雅哉
川島一久
中村雅俊
石井剛司
鈴木亘
松田寛子

岐阜

伏屋幸一
生駒孝
三浦和典
坂井俊司
林正樹
井口高広
三島浩幸
渡邉良昌
中山俊博
大森克也
坂下英基
辻和広
野尻圭吾
山田幸治
秋山惣司
日比野栄策
大松勝巳
鴻巣智
野田英樹
岩井広満
阪本長年
木村保広
和田禮子

京都

山本和義
菅野浩二
芝本亀広
井上勤
高木啓暢
図師具徳
湯浅啓史
河田雅之
中野弘基
山田聡
芝裕章
山本英樹
牧厚行
西山貴之
中川永樹
浦田善仁
平田克子

大阪

射手矢禮三郎
樋口善信
西中幸司
藤井啓之
吉川亮二
乾真弥
松山啓三
藤本哲也
湯野憲昭
林伸至
山本潤子

兵庫

伊地知義治
米田嘉彦
岡崎博史
加納道廣
島端照夫
岸数彦
檜田明宏
尾中忠嗣
毛利謙二
朝山勝彦
中川誠
井原和四郎
稲岡正樹
山本博義
増岡学
中村学
石﨑智士
小川成人
芝田俊和
冨田哲也
檜田幸吉
後藤克宜
西垣貴司
足立圭吾
酒井誠
宮本芳幸
山根勇
大石卓弥
志水喜博
山本正明
梶原一晃
野木良彦
矢田部豊樹
大辻和彦
浅井信人
三木隆史
谷水隆之
古岡敏幸
梶原昭子

奈良

佐古金二郎
石田和之
米田昌義
田中照人
松森良浩
松浦勲
鎌田貢
植田伊左男
鶴田伸依

滋賀

村川繁明
平井勝也
平綱育男
嶋村昌宏
鹿取千尋
金井長光
北村源和
西村一男
佃宗治

堤　臣　揮
梅景　みゆき

和歌山

中尾　友　明
鈴木　章　史
亀　邦　弘
小西　隆　文
山田　勝　久
福井　隆　元
江川　公　博
辻　朗　文
菖蒲　孝　光
上田　一　男
勝部　芳　紀
杉下　和　夫
佐々木　義　郎

鳥取

田住　浩
赤川　紀　夫
今崎　義　幸
吉田　力
梶本　善　照
関　裕　介
鶴田　尚　美

島根

石田　裕　司
石倉　克　巳
井上　聡
熊谷　道　利
佐野　薫
吉廻　智　美
西村　満　之
船越　淳　一　志
深野　靖　一
藤田　雅　一
河野　安　秀
髙橋　幸　満
金崎　智　子

岡山

河野　玲
赤澤　規　夫
田中　邦　彦
奥本　幸　広
定金　肇
藤原　靖　浩
田渕　康　修
木村　雅　弘
山崎　一　成
石井　豊　海
皆木　浩　己
題府　健　治
大崎　充　弘
柴田　泰　伸
藤岡　昭　平
坪内　正　敏
森　剛　明
山根　浩　司
坂口　安　直　行
髙津　直　浩　志
松岡　浩　英　雄
片岡　英　啓　介
水田　啓　守
尾原　貴　敏
新田　清　勝
貝原　勝　昭
大美　子
箱田
田村　和

広島

髙取　龍　生
山田　雄　二
粂　勝　三
中野　英　雄
冨永　則　雄
若年　清　春
増元　勝　也
津山　雅　文
内山　浩　志
藤井　一　寿
松葉　匡　倫
迫口　宏　士
矢野　清
新門　秋　則
龍野　隆
重谷　明　快
新谷　佳　敬
田邊　篤　想
小原　正　次
小笠原　勝　宏
城　妙　子

山口

柴田　幸　司
清德　智　彦
阿武　均
植木　克　己
藤井　陽　治
濵畠　芳　治
吉毛　健　治
久保　敏　雄
山下　一　郎
吉村　泰　憲
藤井　幸　明
久保田　正　登
河村　隆　弘
久保田　勇　治
屋敷　照　子

徳島

楠　秀　之
森本　正　明
佐々木　義　浩
安藝　信　保
関口　公　司
冨田　智　久
瀬川　勝　之
立道　政　吉
中尾山　秀　政
小井出　和　男
高橋　朋　昭
乃一　美　恵

香川

長尾　庄　司
小阪　正　裕
牛谷　孝
眞部　義　弘
佐廣　維　建
林　勇　志
筒井　英　明
緒方　正　敬
皆見　和　昭
野村　幸　代

愛媛

關　裕　二
船田　辰　雄
山本　功　之
宮内　一　郎
由藤　隆
油居　教　之
岡崎　浩　幸
前田　淳
長野　悟
平野　武　邦
和田　浩　次
上川　政　彦
宗野　誠　司
伊藤　隆
八塚　俊　明
加藤　昭　吾
木田　清一郎
玉井　公　明
岡本　耕　明
濱田　竜　聖
古田　邦　博
中村　浩　美

高知

仙頭　稔　史
小松　和　英
梶原　茂　英
川上　博　史
廣瀬　誠　一
藤岡　利　幸
大田　均
中村　健　次
中山　雅　靖

長崎

髙比良　淳
山口　邦　紀
笹山　達　郎
川口　直一郎
石場　竜　弘
森　敦
吉永　享　助
市山　伸　一
水田　龍　美
長崎　章
川添　研　一
浦　智　博
中村　昭　繁
荒木　昭　吉
川崎　宏　幸
浦　修　一
髙島　晃
上ノ原　宏　二
畑田　茂
平山　朋　子

福岡

井上　勘　昭
原口　久　登
緒方　豊　次
大野　正　男
松本　章
久保　誠　治
入門　巧
三浦　正　好
安永　晴　美
福島　教　之
籏生　秀　未
植村　秀　一
西山　孝　和
八尋　義　文
矢ケ部　信　二
久保田　学
今村　富　治
上野　哲　也
原　和　敏
福永　信　一
吉村　友　宏
大田　克　行
白土　健一郎
世羅　修　次
馬場　富美代

大分

染矢　裕　紹
後藤　博　文
泉　幸　一
石川　元　和
綿貫　敏　弘
永井　幸　己
北村　正　美
江藤　陽　一
工藤　泰　正
野中　澄　登
石丸　和　久
安部　義　浩
河野　裕
橋本　一　浩
武末　達　三

佐賀

吉村　勝　則
松原　秀　彦
武藤　輝　久
田中　康　夫
正林　紀　之
吉原　章　德
村山　正　浩
中江　裕　史
松尾　圭　祐
中島　秀　隆
池田　紹　児
梶原　清
大坪　昌　喜
蒲地　哲　也
松本　博
溝口　良　実
谷口　英　也
梅村　鉄　三
井上　耕　一
古川　初　子

熊本

藤城　誠　也
松嶋　宏　平
山口　春　男
今井　昌　文
山辺　満
蓮田　正　治
髙日　龍　治
井川　豊
杉本　和　明
左村　謙　明
合志　和　彦
河津　浩
岩見　暢　靖
井　富太郎
山野　和　敏
篠原　一　久
黒肥地　孝　一
尾崎　一　郎
大無田　満　浩
道喜　邦　浩
上村　和　裕
藤本　祐　二
本田　宏
池田　光　隆
清永　正
今村　清
伊髙　勝
上野　弘　二
田尻　清　治
垣下　孝　幸
村上　和　浩
寺岡　貴　章
山野　利惠子

宮崎

佐藤　恒　和
甲斐　睦　雄
井本　厚　德
池田　博　則
小川　一　三
飯干　浩　行
黒木　隆　幸
中武　勉
蛯原　寛　人
恒吉　善　和
尾原　浩　光
貴嶋　憲太郎
温水　正　弘
德村　勉
成田　一　志

鹿児島

有村　伊智博
弟子丸　宗　一
坂元　幹　也
藤田　学
土屋　孝　一
西ノ園　隆
住吉　信
小牧　純　一
山下　昌　平
本　幸　治
坂口　勝　彦
小谷　幸　男
有村　信　行
飯田　利　美
假屋　進
山下　誠　慈
加納　丈　士
花堂　たえ子

沖縄

久場　里　彦
比嘉　光　昭
安里　紀　人
渡久地　政　実
當眞　幼　菜

精績章　2,191名

北海道

長谷川　徹
羽生　勝利
林　和範
岡部　龍幸
松浦　正治
相田　芳男
東谷　直樹
水元　宏
鍋谷　悟
前田　郁勝
原田　毅彦
澤田　和広
堀田　靖一
小倉　利博
須藤　純一
斉藤　茂則
内木　勇一
山田　健喜
見山　義秋
横山　英基
土井　康晴
道塚　信治
青羽　雄士
敦賀　章
高島　光則
南　慎治
渡辺　正勝
滝本　博守
石塚　勝之
道下　敏美
斉藤　克文
鈴木　伸美
日暮　武一
佐藤　丈
和田　眞廣
飛内　信吾
吉中　昭之
堀江　裕一
齊藤　利之
若狭　勤雄
川岸　浩幸
柴田　好広
佐藤　和義
森　眞二
早田　文男
岩崎　敏文
渡辺　善二
青木　洋美
関口　博
因　直司
高橋　辰雄
江川　也
三　好　一　孝
本　間　忠　人
鳥　越　博　徳
稲　葉　俊　也
米　倉　正　人
森　田　秀　司
内　山　酒　井　裕
酒　井　白　田　美
白　田　澤　田　彦
澤　田　本　間　浩
本　間　田　村　二
田　村　渡　辺　巌
渡　辺　森　潤　二
森　潤　可　知　裕　幸
可　知　後　藤　勇　治
後　藤　宮　内　修
宮　内　加　藤　和　範
加　藤　高　山　正　一
高　山　林　宏　樹
林　宏　廣　川　浩　嗣
廣　川　堀　一　紀
堀　一　鈴　木　邦　佳
鈴　木　蛯　名　嘉　章
蛯　名　石　田　清　浩
石　田　下　山　和　夫
下　山　豊　間　根　茂
豊　間　根　高　橋　美恵子
高　橋　三　国　美恵子
三　国　石　田　久　恵
石　田　佐　藤　あけみ
佐　藤　三　上　裕紀子
三　上

青　森

坂　本　義　彦
中　嶋　孝　志
田　中　祐　之
大　室　和　男
北　上　克　之
高　松　誠
須田山　俊　一
田　中　匡
鳥谷部　修
坂　本　春　彦
三　上　正　仁
下　山　高　雄
林　忠　夫
遠　藤　廣　貴
三　戸　康　正
泉　賢　治
熊　谷　孝　夫
相　馬　良　二
成　田　啓　一
澤　谷　昇
佐　藤　雅　春
木　村　登喜男
東　谷　巧
佐　藤　一　志
木　村　勝　行
佐　藤　弘　文
中　村　剛
堀　川　光　弘
山　下　弘　光
佐々木　孝　幸
蛭　名　浩　二
笹　谷　孝　弘
岩　谷　瑞　男
鳴　瀬　順　一
木　戸　良　治
大　居　久　義
長　利　和　人
能　戸　康　一
古　田　春　樹
櫻　庭　誠　則
上　田　周　弘
山　内　聖　子
熊　野　恵　子

岩　手

阿　部　弘　実
佐々木　正　利
伊　藤　佳　史
畑　山　忠
藤　倉　高　志
古　舘　康　裕
中　村　利　典
外　舘　嗣　弘
小　林　達　広
佐　藤　広　徳
佐　藤　克　朗
足　利　徳　夫
菅　原　精　一
小野寺　義　孝
熊　谷　勇　作
佐　藤　勝　弘
金　野　剛
千　葉　繁　規
小　坪　智　幸
渕　元　正　紀
佐　藤　安　雄
高　橋　吉　史
菊　池　輝　夫
三　上　一　広
平　賀　昭　彦
高　橋　昌　昭
加　藤　栄　喜
高　橋　一　弥
高　橋　到
千　葉　一　広
菊　地　昭　一
菅　野　祐　孝
北　徳　美
志　和　純
宇　部　文　人
下　舘　靖
山　崎　確　巳
平　舩　博　之
下　平　幸　作
久　慈　一　志
大　沢　一　志
遠　藤　雅　彦
福　田　喜代志
小笠原　賢次郎
長　澤　一
井　上　佐　一
今　松　巌
岩　脇　勇
藤　村　和　幸

宮　城

鴇　田　利　浩
平　井　克　典
藤　垣　宣　一
千　葉　秀　歳
尾　形　秀　一
跡　部　信　一
浅　沼　卓　也
早　坂　賢　一
伊　藤　睦　裕
畠　山　正　美
荒　川　大
星　見　裕　之
今　野　隆
田　部　友　和
長　山　孝　好
佐　藤　健　一
佐　藤　清　和
大　宮　義　紀
佐　藤　太
菊　地　喜　典
及　川　雅　之
津　田　孝　造
本　田　昭　彦
松　浦　和　広
齊　藤　俊　輔
及　川　留太郎
小　高　正　榮
笹　原　正　悦
佐　藤　秋　広
佐　藤　友　一
加　藤　芳　幸
手　嶋　一　郎
今　野　敏　弘
氏　家　竹　道
三　塚　秀　夫
今　野　好　則
加　藤　隆　男
高　橋　和　徳
佐　藤　祝
西　條　哲　城
佐　藤　順　信
杉　浦　栄　樹
阿　部　貢
宮　本　政　直
村　井　英　信
遠　藤　徹　也
石　垣　浩　幸
齋　藤　裕
及　川　昭　一
村　上　昭　男
佐　藤　和　彦
菅　山　美　香
中　澤　京　子

秋　田

田　中　豊
秋　本　勇　美
鳴　海　正　春
本　間　光　仁
木　村　謙　一
柴　田　昭　夫
田　中　寿
杉　渕　宏
大　谷　孝
庄　内　道　雄
嶋　田　和　子
笹　村　清　幸
杉　本　一　敏
伊　藤　力
金　昭　彦
工　藤　和　博
伊　藤　由香里
武　藤　学
若　狭　政　勝
鈴　木　功
鎌　田　一
佐　藤　満
松　本　恵
金　政　途
田　口　保　信
遠　藤　勝
住　吉　伸　哉
佐々木　剣
三　川　正　人
高　橋　和　美
佐々木　吉　則
櫻　田　英　喜
加　藤　元
小田嶋　敏　夫
佐　藤　勝
鈴　木　浩
高　橋　剛
佐　藤　賢　一
高　橋　千登勢
高　橋　広　美
高　橋　喜　信
石　田　均
菊　地　貞　一
高　山　一　夫

山　形

平　吹　拓　也
阿　部　健太郎
清　野　康　浩
渡　邉　準　市
井　上　信一郎
高　山　義　則
山　口　隆　幸
太　田　徹
後　藤　忠　浩
今　野　清　俊
小　野　良　文
門　脇　一　嘉
志　田　裕
佐　藤　貴　志
深　瀬　茂
矢　萩　豊　親
阿　部　孝　広
大　山　祐　近
芳　賀　富　弥
森　記　之
工　藤　精　一
大　場　修
五十嵐　泰　博
柴　田　浩　一
大　場　満
横　山　勇　悦
堀　米　太
大　山　浩　昭
小　形　茂
吉　田　一　茂
高　橋　守
鈴　木　崇
井　田　和　史
竹　田　貞　徳
長谷川　健
小　倉　慎　吾
金　子　甚　一
小　関　史　和
須　貝　公　一

須貝 篤志
福嶋 貴士
五十嵐 和則
伊藤 和宏
齋藤 正至
阿部 雅弘
佐藤 司
成澤 正人
生石 覚
大川 洋巳
加藤 元嗣
佐藤 高嘉
石井 洋
本間 輝之
柿島 久子
後藤 勝志
佐藤 豊
和島 芳樹
松田 健一
横澤 明子

福島

髙橋 俊浩
阿部 幸一
齋藤 秀行
山岸 康弘
美谷 好市
小川 和治
関根 良孝
霜山 紀行
朽木 隆文
松浦 祐一
鈴木 義明
佐藤 宏幸
菅野 浩明
根本 清貴
野地 保幸
石川 真
矢部 久
松崎 昭
今泉 敏
橋本 栄一
石澤 弘一
石井 孝幸
飯塚 一弘
佐藤 光好
野口 大治
浦山 宏
栗山 豊
大和田 忍
森 俊樹
岡部 文志
根本 清一郎
十文字 一也
森 隆義
大和田 秀市
生田目 一幸
永山 一則
須藤 重晴
高木 順一
深堀 正
田中 一
黒須 誠
佐久間 秀邦
根本 博文
内山 誠
卯月 宏次
山野 友憲
長谷川 榮一
平塚 祐喜
佐藤 千裕
二瓶 裕之
松本 巧美
峯岸 香
佐藤 幸一
遠藤 周一
泉 秀典
渡部 貴洋
青木 正幸
髙橋 信彦
小原 武彦
金子 円
馬場 要助
湯田 哲郎
穴澤 幸一
星 光喜
堀江 正重
小野 尚男
生田目 信之
松本 武人
吉田 充
矢内 順一郎
金成 佳久
鈴木 茂幸
長谷川 勝雄
井出 正人
末永 隆一
根本 英樹
豊田 光信
星 康彦
井上 謙一
鎌田 和久
佐藤 春雄

新潟

島倉 秀男
佐野 秀行
古源 義道
西野 純一
桜井 正和
小出 由之
髙橋 幸治
若木 聡
中川 由久
本間 潤治
五十嵐 鉄夫
田中 貴之
宗村 勇二
岡島 大輔
川端 伸也
小林 剛
熊倉 和樹
恩田 智宏
矢尾板 信幸
山崎 一茂
石坂 哲
脇屋 正光
渡邊 秀也
鳥越 修
永井 靖幸
土田 栄治
髙橋 裕彦
渡邉 智
木滑 貴史
梨本 まり子
皆川 秀司
馬場 幸範
佐藤 克範
石川 朋幸
中山 健太郎
長谷川 健二
伊藤 義孝
平岡 優智
小林 定良
深澤 和之
難波 憲幸
井伊 大輔
伊藤 渉
安井 悟
番場 文雄
渡部 豊和
引馬 茂夫
熊澤 義彦
佐藤 斉
住安 直紀
駒形 辰巳
豊野 健
松井 富雄
阿部 充
南雲 淳司
南雲 健一
佐藤 隆
樋口 利和
中島 淳也
太田 恭司
島田 福徳
藤ノ木 隆広
飯塚 豊
近藤 典昭
永井 鉄栄
種岡 登志雄
横澤 浩一
富樫 貴行
髙橋 将太
渡邉 喜和
三須 良一郎
松村 博幸
柴田 直哉
佐藤 利彦
佐藤 由之
飯野 勇人
酒井 弘行
草間 和幸
木村 勇樹
熊木 貴一
岩崎 晃
阿部 知洋
倉又 裕樹
恩田 守
城戸 弘
齋須 謙一
本間 稔彰
市橋 正晴
寺野 俊夫
髙橋 千恵子
樋口 和佳子

東京

滝澤 裕一
中村 正夫
坂和 和枝
江尻 賢
牛込 勝彦
疋田 重幸
笹木 邦夫
三浦 定
前田 ケイ子
峯 直樹
宗田 次郎
髙橋 昭彦
大原 和男
原岡 充
山内 康行
小林 勉
春日井 勇吉
曲木 英一
上野 拓哉
齋藤 繁和
野地 広
熊本 喜久代
三井 昭夫
宇多川 俊明
水田 茂則
江口 方弘
青柳 勝巳
川田 直浩
野口 博之
山口 裕幸
樋口 博之
髙橋 潔
秋山 徳雄
浜田 東一
石川 和子
荻田 武司
田島 光明
田島 義幸
野口 富嗣
三國 美一
鮎川 有祐
佐藤 浩一
内山 雅博
金子 勝
尾崎 友英
三原 大介
田中 雄一郎
髙橋 秀明
井上 佳之
峰岸 政宏
伊勢川 泰央
本橋 伸悟
坂本 圭
田邉 浩也
古橋 佑介
徳王 龍介
籠嶋 広太
土谷 卓
小宮山 一樹
吉田 順
髙杉 一恵
斉藤 由美
大石 久仁子
小林 晶子
大嶋 たき子
平谷 隆子
後藤 栄子
小池 由美子

神奈川

吉田 龍郎
福田 茂
小野 広子
菅原 義彦
臼井 寛之
入江 直孝
早乙女 定男
岩崎 進
蒲 富彦
伊藤 一弘
草山 恵子
河原 秀明
吉村 郁生
髙橋 健一
荒巻 成子
吉野 和也
石川 清志
井上 忠
蒲田 賢
石川 秀明
矢部 浩司
髙崎 直
義澤 彰
石田 伸司
船橋 忠司
中尾 エミ子
下里 将人
角井 一行
佐々木 四男
大籠 浩子
松本 長哲
波形 知良
石井 秀一
松岡 伸和
谷川 宗治
福岡 貴久
小沢 正和
石橋 慎一
久保寺 哲夫
中須 功一
曽根 誠
石井 友行
一杉 茂雄
金子 能久
石岡 泰弘
遠藤 善之
佐藤 勇憲

埼玉

田中 俊之
吉田 秀明
新井 一浩
小山 治
大澤 弘幸
細田 浩一
長谷川 好男
柳 敏夫
藤野 芳夫
髙橋 勝則
小松 正広
矢作 悦男
中山 稔
池田 稔
田村 延省
岩崎 英男
吉田 忠行
小柳 晃
樋口 孝
齊藤 宏
平松 弘之
小島 啓一
金子 俊夫
中村 守
加藤 泰道

酒井　智
山口　義弘
小池　文夫
田中　智子

長野

井出　完司
小平　雅之
有坂　泰志
菊池　睦彦
井出　祐晃
鷹野　長生
土屋　春夫
平島　昭二
小金沢　伸一
松井　利之
内藤　智
青木　孝弥
堀篭　敬吾
小宮山　聡次郎
矢嶌　直樹
織間　恵太
根石　政孝
尾山　直樹
依田　宣征
羽毛田　祥之
中澤　運仁
小口　順一郎
酒井　幸男
荒井　崇行
北原　博樹
中島　正二朗
武居　和彦
矢野　正実
北野　徹
那須　政司
吉川　裕之
山田　裕一
清水　健悟
林　成人
松澤　洋一
北島　泰治
高橋　健二
藤原　隆
篠原　康伸
今井　康貴
小松　智
堀井　大輔
高橋　稔
原田　静雄
林　貴士
筒木　猛
佐藤　佳彦
三澤　文彦
久保田　毅
大池　修一
奥原　登志郎

山梨

窪田　精一郎
佐野　和夫
石川　明夫
小林　正浩
依田　瑞木
森本　薫
名取　大介
降矢　孝博
清水　秀樹
神宮司　浩
小原　春人
深澤　栄一
白倉　孝義
武田　正文
赤池　良久
上田　健剛
大森　夏樹
芦澤　正
前島　郁夫
布施　真
山下　隆
大久保　哲也
金井　美明
廣瀬　純一
古屋　勝弘
権守　正弘
渡邉　謙
三浦　道安
安井　和雅
梶原　洋明
小林　三成
大野　和宏
青木　国宏
植木　克忠
大町　真之
澤　和仁
大川　克巳
蓮沼　和博
湧井　洋
荒井　裕明
柿沼　仁
藤田　秀樹
黒尾　光一
石川　悦哉
中島　英樹
田代　智一
渡辺　文男
田中　靖紀
飯塚　和実
髙橋　祐二
舘野　栄男
上原　孝則
石崎　史和
増渕　祥弘
戸松　由美子

栃木

山本　直紀
遠藤　弘之
松本　久則
齋藤　道夫
小太刀　義和
坂本　雅人
小川　竜一
礒　康裕
齋藤　信男
横地　正行
水野　壽一
小川　元康
矢野　雅春
爲川　清
森　康彦
樫村　義幸
岡本　直樹
渡邉　浩行
木村　道夫
鈴木　更司
小松崎　徹
小室　茂久
佐藤　大介
高田　茂
伊藤　栄司
塙　昭浩
木名瀬　博
藤枝　信幸
柴沼　光明
石井　洋明
野本　佳孝
髙橋　聡
蓮沼　俊幸
菅谷　剛
鈴木　広寿
安嶋　幸雄
嶋田　邦彦
尾形　利勝
酒井　靖
大谷　貞章
髙橋　伸滋
岩田　憲治
遠藤　正雄
染谷　敏行
成田　善治
岩本　善和
野本　健二
菅谷　充
海老原　幸二
髙須　明倫
田口　光浩
黒沢　道生
大内　康裕
辻　せつ子
瀬田　文子

茨城

小松崎　政博
菊池　良彦
鈴木　進
横山　功
小林　達明
池田　正文
大里　克友
松本　太
稲葉　信良
石崎　邦男
佐川　一郎
佐川　文一
金澤　国雄
下山田　正治
吉久保　武士
岡野　清仁
千葉　重人
高田　健次郎
細田　潤一
沢辺　純夫
川上　一幸
椎名　誠
山崎　吉美
木村　浩輝
萩野谷　豊
稲田　直樹
伊藤　浩美
古内　一行
吉田　崇亜
玉川　和仁
宇井　純哉
駒塚　茂樹
鈴木　智一
中村　好宏
金澤　健一
狩野　由幸
深山　興宣
唐木　弘之
若松　正光
鈴木　恵祐
嶋田　武志
佐藤　一広
小原　浩吉
保田　勝実
山崎　雄篤
永井　博一
荒井　和昭
石井　勝成
鴇田　幸美
西田　陽司
平野　浩一郎
嶋田　信次
川名　静行
大髙　香子
河野　織

群馬

佐藤　昌行
大嶋　康雄
川邉　国也
髙田　純憲
栗本　文史
林　伸博
悴田　恵二
市川　正敏
細谷　勝人
米山　正男
高橋　孝士
永井　博史
綿貫　剛幸
竹渕　敏太
新井　浩治
鈴木　貴道
川和　島直
毒島　英一
今井　則之
大嶋　浩伸
須藤　学士
中川　和佳
柳　淳一
影山　明宏
木下　潤
関口　啓
齋藤　天
小板橋　寛
赤澤　一真
細谷　幸伸
松島　貴之
津久井　正登
長島　慎治
長瀬　路

千葉

大塚　由裕
戸村　信雄
安田　和
西脇　雅彦
山口　保純
土岐　淳一
宮本　了一
鈴木　弘幸
君塚　文彦
小林　修一
小暮　信人
加藤　友康
中臺　馨
昼間　靖人
森田　康宏
遠藤　好昭
川俣　徳幸
杉山　浩一
中野　翔太
髙市　浩幸
梅沢　賢一
渡辺　浩利
土屋　純一
村越　恒則
荒井　新治
市川　巌
粟生　博
林田　昇
深澤　洋輔
岩井　敦博
川村　洋介
出浦　昭彦
森重　勝
髙橋　新治
渋谷　勝利
篠原　和也
葛生　和幸
鎌形　幸輝
所　雅視
石井　雄士
伊橋　孝太郎
小笹　朋広
千葉　信一
片瀬　貴裕
梅林　一彦
嶋田　勉
越川　芳光
田中　裕規
安藤　和幸
吉田　賢一
大附　泰久
金井　達也
関根　保明
金子　和弘
小川　光弘
新井　正夫
小峰　康夫
新井　弘夫
櫻井　幸保
稲垣　富一
榎本　勝宏
齊藤　真宏
市瀬　昇
神田　晃一
齋藤　浩一
長谷川　暁
永島　錦一
蔦澤　康広
金森　雅巳
日詰　英和
青木　享也
小林　哲也
岩崎　聖也
島根　加子
染谷　佳織
落合　

宮下信俊
田原勇介
川田泰治
太田寛展
徳田竹正芳
和田剛
小山忠彦
宮﨑和哉
湯本孝正
徳永政弘
黒岩正昭
大宮正喜
小林保治
飯島利行
原山新一
髙坂英樹
清水大輔
榎田祐一
東方由喜秀
大澤尚之
宮本永人
楠佳典
小澤洋一
宮澤良人
齋藤正樹
斉藤真志
小林美佐子
兼子清美
辻藤浩子

福井

松川勝士
永田芳弘
橋本淳
河野清高
小濱弘範
小林良治
本多義信
水野忠範
小林和孝
野尻敏弘
嶋﨑誠一郎
三好勇治
山本宗治
武長一紀
成瀬誠
森下洋光
伊藤和正
大塚ゆかり

石川

土上智
元勇一
金子長継
萬谷隆行
長原英一
多宮宗
堀内博
加藤信幸
新谷進
亀丸善弘
谷口政幸
明裕一
金七祐太郎
村谷恭代

富山

菅原哲
野村昌己
上野和久
梨木潤
桜井利夫
山口繁一
土肥順済
塩澤忠司
水岡勝之
荒木正昭
清水和弘
浅野正信
宮永吉隆
岩山久雄
岩腰肇
岡﨑信也
青山誠
新酒善彦
海内孝之
宮村穣
松長秀治
小田健治
四辻新一郎
条谷正利
太田健一
林晴美
脇坂智恵美

三重

加藤正明
服部光男
野末浩史
志水勇人
廣田三廣
佐藤卓也
堤聖
藤川圭司
奥野ひとみ
松本洋子
村山浩也
小林英紀
村田健
福本卓夫
今井長人
服部信幸
久保恭宏
濱口波
大畑二
秀良太
小倉功
竹内康
坂口裕信
佐野友二
松本憲作
森大正
福森明
熊本樹
福岡基尊
中村一
玉岡俊二
榎本眞子
加藤喜子
東海はる美

愛知

酒井保治
日比賢一
堀田直樹
加藤英雄
服部栄一
宮本英美
當摩秀夫
小原洋臣
秋田郁夫
宮田順行
浅井裕一
服部義隆
渡邉健治
山田信昭
毛利洋一
佐々木茂
伊藤喜代一
森下和良
新間秀樹
野田繁弘
竹下修
青山幸司
朝倉大樹
白井雅史
杉浦孝雄
坂井田知秀
尾関和久
森康浩
和田健司
秋田栄作
加藤陶忠
水野透
原田浩二
長江亮
各務誠二
細田尚孝
塚田健司
都築邦治
牧原正憲
増田大介
那須崇
山田義也
市川有教
菅沼勝規
大島宏信
松井眞仁
浦川佑司
仲根弘志郎
永田俊治
大津真児
鈴木雅治
太田昌臣
中根義浩
池末睦
近藤睦
河合正
小澤直哉
阪本勝利
宮寺裕治
原田竜好
原田佑介
伊藤洋平
安藤孝順
岩村武洋
江口勲
伊藤貞和
服部利吉
芦沢恵子
白井恭子
堀田理絵

静岡

相馬義人
齋藤孝史
髙木斉
吉長政彦
小野政芳
松廣富成
佐藤裕介
梅原政幸
荻野一義
荒生竜治
森川直樹
山本貴一
仲田崇浩
小山貢
伊藤裕
佐野文彦
秦野幸司
鎌倉美之
桜井博之
松永真明
黒野倫彦
金山高幸
戸塚裕也
福與藤久
鈴木宏明
大村秀樹
渡邉茂寛
福門雅之
本目浩三
縣佑次
増田吉秀
鈴木将介
木野能和
八木幸太
熊野谷隆之
山﨑裕子
鈴木章弘
小出陽一郎
山本貴之
竹内和紀
小出泰達
日髙庄作
松井栄二
平野亜美子

岐阜

細江広仲
松下松寿
二村雅紀
長瀬善治郎
稲川万規臣
藤井卓也
竹市貴浩
井戸真司
澤井賢治
土井圭一郎
高橋嗣雄
山田敏彦
棚瀬富弘
田中和則
小川秀樹
豊吉滋
伊藤晃
野間口龍磨
竹嶋久善
大宮雅博
石川誠
小木曽幸広
北原典明
柴田泰樹
藤村篤伸
森下一仁
渡邉裕隆
水野信平
太田圭一
桑原和憲
磯部秀和
石川充宏
藤村俊彦
森克久
足立浩一
中村誉
和田直也
堀川和宏
渡邉豊
足立純三
山藤晋吾
小山晃史
清水学
林立之
高橋嘉彦
井口忠司
畑下実
加藤政司
水口仙之
高田満浩
下廣太一
和田一仁
杉山功実
面尾さとみ
安藤佳子

京都

奥野義和
小幡彰一
山根寿章
藤松吉宣
福井啓之
髙橋賢一郎
福本修三
大西正晃
青山裕司
塩田智之
中野洋
増田聡
辻井良文
下間康広
三浦真
小畑貴彦
四方淳志
谷学
中川格人
樋口裕行
本田雄士
森井法人
中村尊弘
藤原則裕
吉岡和範
長澤靖史
神谷由紀
山嵜忠史
竹谷久八
大下裕宣
橋田広道
岡﨑浩和
上田幸寛
田中謙次
山本雅之
奥田大介

山本　誠
岡本　一隆
長谷川　なおみ
住友　みち代

大阪

着本　晃司
佐藤　武彦
髙井　雅樹
稲浦　良成
嵐谷　仁志
吉野谷　裕二
巽　正博
仲村　正史
井上　誠二
村川　充
佐藤　博史
山本　孝信
木口　幸俊
谷野　恭
谷　鉄也
大槻　興
原田　正雄
山田　浩史
板橋　崇嗣
黒岩　仁
半田　和隆
田中　信一
川井　保明
大畑　忠昭
阪本　陽一
向井　幸代

兵庫

乾　誠
粟田　耕太郎
大田　照一
中嶋　竜二
池鍋　博幸
松本　和之
長福　利紀
本田　匡
網島　雅彦
宇田　忠生
荒木　義彦
堀尾　和好
中野　正祥
宮西　久志
菅田　勉
沖田　和夫
宮本　章彦
倉八　宗仁
和田　裕司
北原　常司
玉田　和正
井髙　直己
奥井　智
信　幸仁
章　勝也
敬　芳三
正　尚弘
健　重稔
孝　雅史
健　純一
和　和徳
英　淳則
辰　元人
敏　純司
純　一義
和　行之
英　史
淳　海
辰　秀
元　之
敏　子
純　亮
一　真
裕一郎　
浩　一
基　博
孝　司
裕　樹
喜　博
康　夫
良　紀
智　之
省　二
秀　章
伸　一
英　樹
浩　和
晴　生
孝　基
和　行
秀　仁
昭　人
一　典
純　典
健　司
雅　朗
英　司
大　樹
秀　介
裕　則
訓　章
輝　民
洋　夫
数原　雅史
伊藤　禎和
長谷川　哲也
品川　太志
松尾　大
藤原　朋訓
池田　誠
深澤　寿彦
金谷　貴昭
梶本　健一
馬場　一壽
浅田　健
邑橋　智
小西　富夫
二井　美郁子
西本　富子

奈良

中砂　元伸
小田　栄男
武村　雅央
安本　喜次
吉川　佳秀
岡本　徳幸
田中　正信
南　隆二
河中　利廣
大而　邦雄
秋田　安志
長谷川　東
山﨑　惠嗣
芦髙　由香
中村　正城
南井　正幸
而窪　耕介
林田　康成
中西　茂巳
國柄　由紀子

滋賀

谷口　俊治
岡本　英樹
小野　滋
福本　勇
中川　清太郎
三國　真二
岡野　昌勝
竹田　善幸
疋出　秀徳
武久　肇
若井　清次
北川　幸夫
井口　裕夫
深尾　秀昭
北村　正樹
黄瀬　哲延
佐々木　稔
上　準一郎
北口　直樹
土岐　和宏
杉江　匡
上野　正和
寺田　兼造
大家　博文
東　一二
堀江　さや美

和歌山

大西　裕
岡根　良安
杉浦　正
瀬谷　秀男
井上　勇二
中硲　隆平
垂井　宏明
黒松　和也
清水　重良
寺田　博紀
松下　卓司
平林　崇章
山崎　聖紀
中瀬　好
大西　聡
兵谷　昌伸
坂本　晃
秋田　博城
黒田　滋之
浦口　正喜
狗巻　和樹
平　喜行
小川　雅史
伊東　潔
井上　典和
川口　順也
橋本　真次
湯川　慶高
小杉　和由
湯川　峰行
生駒　吉市郎
榎本　千夏

鳥取

西尾　昭彦
毛利　忠彦
安達　憲吾
坪田　義明
竹内　幸二郎
田川　文男
明里　徹
前田　一郎
田中　一男
葉狩　茂
宮本　雅則
白石　秀樹
金谷　光男
木村　範子

島根

上ケ迫　晃
牛尾　克弘
高井　博邦
松浦　邦春
鳥谷　定男
久原　信二
安達　義浩
三宅　龍
道下　文男
磯田　純人
三島　伸之
原　伸次
足立　英富
中島　守嗣
山本　浩孝
長谷　和
近藤　明
沖田　晃宣
妹尾　裕司
稲田　晴信
田村　建喜
山根　浩明
浅原　和之
村上　眞
瀧田　均
水津　猛
齋藤　幸男
柳原　忠正
大野　誠
木原　佳代子

岡山

藤原　義久
藤原　和昌
安藤　忠昭
後神　勝
椋代　智之
中島　俊明
松本　富士夫
山中　一春
小林　健吾
仁科　徹也
川﨑　大造
小林　久記
池上　基晴
横田　仁志
高岡　秀行
津野邊　和彦
光川　伸一
小川　秀史
野竹　育央
中元　正義
小野　克之
山口　勝
長尾　将史
笠原　桂一
池田　弘
矢延　達海
林田　基成
片岡　義典
坪田　孝一
笠井　実
三嶋　和也
金政　健一
板鼻　康徳
土井　崇司
岸本　敬太
本倉　康弘
岡本　修治
鳥越　聡
禾本　憲一
南　直樹
小山　英三
溝口　俊一
仲田　太郎
石原　一彦
那須　宗敏
横山　義人
川内　誠
植木　貴広
山下　竜一
小林　伸治
大坊　一章
右手　宏幸
三好　光一
小谷　雄司
林　達也
浅野　善弘
井上　潤一
佐藤　雅宣
加藤　司
高坂　隆
齋藤　直之
杉田　成生
林　郁夫
押目　真吾
山根　克士
廣惠　敏孝
川上　修司
川部　敬司
三宅　力
田井　玲子
佐藤　珠貴

広島

天野　直樹
畠中　修司
上田　邦樹
頼實　敏夫
術勢　修

折手 昭男
大田 哲文
坂本 和則
佐々木 公二
出張 晴夫
神田 隆
堀本 巧
河菜 春文
沖田 靖彦
坂岡 修
山登 純子
松野 諭
平木 豊彦
大林 清成
新田 勝彦
渡辺 千洋
岡本 千年美
藤本 英治
藤井 明浩
山根 基史
開地 康弘
板谷 豊
中本 昌之
北村 宗明
木村 寛治
立溝 直司
森原 徹
佐々部 隆好
福間 眞司
加藤 雅規
児玉 朋也
上藤 敬一
木原 雄士
田村 弘明
坂本 恭弘
岡本 美登志
川端 睦夫
相馬 智和
森川 浩二
石田 泰清
加藤 秀明
藤谷 一則
望月 隆司
世羅 敦
大田 恭子
末宗 喜美

山口

高野 進
中村 淳二
林 義浩
藤廣 修
原川 章
山本 亜希広
岩山 貴志
岩谷 美浩
高村 秀雄
小川 信博
三藤 進
岡村 洋治
吉村 和記
原田 信之
野村 謙司
野上 英昭
阿武 隆
尾﨑 慎二
河村 則彦
後藤 昌之
藤野 修身
森重 和美
木下 初彦
坂本 信夫
枝村 則昌
阿部 和郎
廣長 滿
瀬来 英人
水津 治
有川 利美
藤岡 正一
久芳 隆志
大内 力太郎
常永 康富
清水 芳子
野上 律子

徳島

藤川 正文
渋谷 正寿
藤川 清晴
大和 秀幸
岩田 浩文
悦見 雅一
澤田 長彦
山口 茂
賀川 良和
山根 政和
小泉 康典
喜多 通夫
宮田 大助
池田 勝彦
藤 末良
尾田 茂樹
朝野 亮
藤井 義久
日野 恵介
橋本 光広
松家 貞夫
江口 文之
尾方 誠一
髙田 博之
長尾 彰彦
阿佐 尚和
西 保幸
花房 由佳

香川

河野 秀樹
大見 昌弘
松本 英毅
吉本 博之
梨野 善彦
乃村 二郎
小山 典宏
石川 真志
松山 裕司
木虎 泉
村瀬 範士
中川 慎一
圖子 浩
谷﨑 安彦
髙﨑 守隆
端山 君夫
宮下 久男
新名 正明
宮脇 淳
垣見 尚秀
佐々木 明美

愛媛

道岡 定茂
渡邊 勇
村上 光弘
木下 祥広
塩﨑 育志
後藤 基博
白川 英昭
山本 英二
續木 義也
吉良 祐一
谷本 直俊
渡部 文人
中田 圭一
伊藤 英二
沖本 順史
日野 本治
石川 進
只信 正志
長野 孝順
吉井 敏
金子 伊織
山下 貢
渡部 隆晴
井上 浩幸
太森 和彦
森 忠臣
東村 浩己
山内 真一
黒河 昌悦
横山 裕輝
竹村 喜男
眞鍋 英二
松下 明
石丸 清晴
岡 達也
青野 和徳
大塚 和利
樋口 宏治
佐伯 勝美
山口 拓朗
関谷 一郎
立花 裕嗣
鈴木 福二
武井 徳夫
山岡 光明
宮本 寛
山本 貴一
奥藤 幸利
松岡 真一
加登 智利
小西 千鶴子
宇佐美 友子

高知

森 康記
岩田 実
小松 貞人
野中 端人
徳久 靖洋
野瀬 覚
横山 岩人
近藤 達也
公文 徹朗
岡部 雅司
西森 一忠
斎藤 郁夫
高橋 幸彦
濱渦 和
筒井 弘
上岡 克也
土居 愛明
嶋津 淳三
西村 貢一
濵渦 孝幸
久保 浩計

長崎

宮﨑 達也
小川 仁
岩﨑 和彦
堀川 義光
矢野 洋一
諸富 洋一
宮田 雅弘
熊本 健一郎
寺田 真太郎
松本 明弘
濵﨑 和也
新宮 宏昭
鮎川 義成
大平 勝美
冨永 康範
大谷 浩
松本 一郎
田原 正伸
松本 勝彦
福井 規
西山 章
小島 英世
永留 秀敏
江口 正弘
森澤 英樹
草野 恵介
花村 貞弘
田中 信孝
濱村 浩志
前田 武士
堤 猛
吉田 秀男
林田 正臣
小畑 誉
松浦 雄治
加島 正和
森 俊郎
河合 金吾
中山 哲也
入口 淳一郎
大安 勝
楠本 淳也
前川 訓範
中村 穣
近藤 豊典
田浦 秀子

福岡

木下 文孝
真鍋 豊
松浦 司
内山 寿治
井上 富雄
井上 清隆
末松 健太
野上 千尋
糸山 義信
関 利昭
岡本 誠治
竹下 潤
福﨑 隆次
潤 和也
松永 司
稲永 清次
高田 広志
村上 理
下園 誠
長田 勝
宮下 浩一
枝光 靖
須本 哲也
福崎 孝章
古野 崇
阿川 修治
山本 倫明
田中 徹
田村 智香志
小川 和雄
原口 高廣
水田 博樹
末吉 正季
平野 史芳
三小田 勝幸
中富 章弘
田中 雅博
志賀 栄雄
野口 健一
中ノ森 國俊
栗原 義和
木村 育英
鹿野 恒樹
中村 紘大
河原 將一郎
行武 頼明
鬼武 雅仁
濱野 輝弥
白川 雅之
近藤 和彦
江藤 正男
三浦 誠人
梅谷 博幸
芳中 茂治
後藤 敏美
茂永 重生
藤原 昌信
佃 久男
廣橋 英子
竹内 正美
佐藤 裕美

大分

吉岡 英児
志賀 和吉
後藤 能秀
佐藤 哲
須摩 政昭
永瀬 英治
幸 孝美
久保 晴彦
福島 茂和
森 幸徳
大久保 壮一
廣田 和寿
伊東 宏之
髙瀬 清彦
渡邉 圭二

平嶺元章
井手原清美
福元義一
石原浩之
前田康行
原田浩二
瀬戸正一
松田俊則
藏元時光
泊ヶ山重美
中野健一
仁王伸清
山元祐一
遠矢達一
新宮領一郎
大谷正三郎
和泉昭二
宮内常弘
平田幸次
鮫島栄一
串崎實光
姫木公平
楠原新一郎
河野文夫
坂野修三
徳島祥弘
石川一仁
白石英巳
平川久美子
上山あさみ

沖縄

仲田信雄
西原大
宮城勝雄
比嘉正
玉城明喜
宮城利郎
安和淳一
島袋善一
神谷かおり

練一
直樹
慎司
智成
学
吉弘
秀二郎
清和
浩二
康徳
友造
政美
伸文
義光
龍児
裕介
雅博
武志
英作
業
次男
悟
俊一
良則
清則
章夫
定直
荒山賀勝

鹿児島

津之地誠
税所一人
松葉瀬悟
松元洋一
西ノ園光行
早崎哲郎
前川周三
下山逸郎
白窪公紀
鮫島俊一郎
鎌田明隆
谷口浩貴

三浦瀬
高峰
椎葉
岩元
岡本
山田
川口
上米良
沼口
高橋
永野
西森
児玉
井上
仁田脇
木下
永井
柴藤
森山
重山
二木
大田原
後藤
塚田
倉元
松尾
荒山

宮崎

廣木哲也
甲斐友康
堀口真嗣
松本庄司
佐藤宏希
緒方秀允
髙橋正宏
甲斐学
富士持正美
小野由香里

鉄夫
貴記
洋
須彦
肥実
里仁
克治
重治
英三
幸朗
泰考
雄博
司人
博郎
千郎
寿生
哲也
裕司
一朗
幸彦
哲行
信朗
研弘
信徳
重範
和二
清二
雄香
由江
幸香
屋由

野田
那須
土肥
永里
中野
岡本
土屋
山口
尾崎
平井
西村
三田中
一安
朝倉
吉野
本田
西澤
有尾
寺田
牧山
谷口
岩本
村上
西山
三池
青柳
濱田
西川
栗屋

朝之
登司也
純一
紀彰
雅也
伸宜
和久
殖
北斗
誠
智浩
昭幸
友則
貴史
道則
勲
孝司
陽平
仁
勝雄
英治
修一郎
太
雄一
公紀
周房
清文
孝治
淳
和彦
健太郎
貴文
己則
大介
晋作
優樹
剛
潤一
宏樹
秀勝
洋
敬吾

濵田
村川
澤田
米
本田
藤本
野中
有働
坂井
田中
岩見
斉藤
江口
松村
岡野
汐見
松尾
野田
後藤
池田
渡邊
上野
平田
小森田
池上
益永
尾田
竹本
松石
柿原
松田
島川
宮川
興梠
福永
田嶋
佐藤
坂本
浜田
竹原
福島
福浦

敏郎
竜洋
賢二
正樹
直紀
大介
章
司
彦正
則博
磨
史巳
弘一
聡生
和司
志郎
寿紀
介一
秀子
枝
里

熊本

安藤真一
槌田竜一
一門新次
木村幸一
藤森正彦
吉川幸浩
大嶌直樹
村上勝盛
中山雅博
上田一精

堀田
浦田
井上
中島
園田
佐々木
野口
多久島
横田
小杉
杉山
南
倉嶌
水田
天本
石橋
井上
小副川
森田
小柳
永尾
松尾
小八重
嶋
田中
近藤
西山
山北
藤木
中富

美也
潔三
小男
天二
内行
篠一
高治
光浩
児人
佐通
桧二
藤徳
中哲
亀一
川年
奥司
岡夫
室宏
江宜
鶴原
花水
白井
亀野
郷司
安部敬
林由紀夫
清田香代美

佐賀

田中泰司
川原幸二
野中英生
堤和臣
服巻洋彰
糸山慎一郎
田中幸司
吉末博昭
山下博和
陣内努
塚原良太
秋丸義輝
落合栄作
川辺直樹
池田健一
横山達也
坂本智彦

代表謝辞　青森県消防協会　下山正彦会長

祝辞　尾身朝子総務副大臣

勤続章

都道府県名	氏　　名	受彰者数
北海道	伊　藤　　幹	他582名
青森県	石　岡　義　央	他200名
岩手県	户　羽　　勉	他354名
宮城県	髙　橋　正　裕	他263名
秋田県	川　上　博　英	他369名
山形県	高　野　隆　一	他165名
福島県	二階堂　成　門	他329名
新潟県	渡　部　直　人	他364名
東京都	大　沢　一　宏	他202名
神奈川県	片　桐　健　一	他233名
埼玉県	冨　永　隆　夫	他295名
群馬県	山　下　誠　一	他104名
千葉県	津　田　敏　也	他259名
茨城県	大　圖　永　一	他281名
栃木県	倉　井　茂　樹	他119名
山梨県	藤　原　隆　行	他43名
長野県	原　田　　孝	他82名
福井県	前　田　　巧	他52名
石川県	吉　田　茂　樹	他52名
富山県	鋪　田　博　紀	他140名
三重県	田　中　亮　豪	他101名
愛知県	杉　村　和　芳	他106名
静岡県	土　屋　宗三郎	他101名
岐阜県	木野村　博　行	他57名

都道府県名	氏　　名	受彰者数
京都府	滝　口　美津子	他171名
大阪府	中　尾　好　美	他90名
兵庫県	藤　澤　佐知雄	他367名
奈良県	田　中　靖士郎	他105名
滋賀県	岡　本　隆　彦	他76名
和歌山県	寺　下　俊　人	他199名
鳥取県	米　澤　嘉　憲	他65名
島根県	船　木　康　弘	他178名
岡山県	厨　子　一　博	他429名
広島県	西　本　輝　義	他375名
山口県	中　山　文　男	他281名
徳島県	森　野　浩　和	他135名
香川県	和　泉　豊　志	他136名
愛媛県	森　　眞　和	他260名
高知県	山　中　　一	他167名
長崎県	有　江　芳　展	他177名
福岡県	梅　津　竜　次	他147名
大分県	大　野　盛　通	他236名
佐賀県	川　原　幸　二	他91名
熊本県	宮　内　和　人	他211名
宮崎県	馬　原　　祥	他141名
鹿児島県	弥　栄　泰　広	他243名
沖縄県	名嘉真　幸　治	他57名

9,237名

閉式の辞　日本消防協会　古山大功副会長

優良婦人消防隊（表彰旗）　6隊

都道府県名	消　防　隊　名
宮城県	大河原町婦人消防隊
山形県	大蔵村婦人防火協力隊
神奈川県	佐原婦人消防隊
滋賀県	下鈎甲婦人消防隊
岡山県	笠岡市入江婦人消防隊
香川県	丸亀市城南女性消防隊

優良婦人消防隊員（功績章）　9名

都道府県名	氏　　名
宮城県	小　松　ま　さ　子
宮城県	野　田　幸　　代
神奈川県	吉　村　榮　　子
茨城県	青　木　啓　　子
栃木県	岡　田　好　　枝
愛知県	浅　井　壽　美　江
滋賀県	木　戸　隆　　子
和歌山県	田　畑　み　き　子
徳島県	小　林　　愛

永年勤続職員表彰　10名

所　　属	氏　　名
日本消防協会	入　江　恵　子
日本消防協会	鈴　木　晴　美
日本消防協会	福　地　　寛
日本消防協会	照　井　弘　子
日本消防協会	村　井　一　江
北海道消防協会	勝　木　伸　一
群馬県消防協会	久　住　憲　子
山梨県消防協会	神宮寺　洋　子
滋賀県消防協会	岸　　秀　明
大分県消防協会	金　丸　美　鈴

シンポジウム「地域防災力充実強化法制定10年を迎えて」を映像配信

(公財)日本消防協会

例年この時期には、消防大会として、消防団、消防団員等を表彰する定例表彰式を行い、さらに、消防のあり方等についてご意見をいただくシンポジウムを実施していましたが、今年も、コロナ禍の状況を鑑み、映像配信により開催します。

シンポジウムは「地域防災力充実強化法制定10年を迎えて」をテーマとして、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の制定の経緯からこれまでの評価、そしてこれからのあり方について討議しました。

シンポジウムの映像は、令和５年４月３日より、当協会ホームページにてご覧いただけます。

パネリスト（敬称略・順不同）

神戸大学名誉教授／兵庫県立大学特任教授　室﨑　益輝
国士舘大学 防災・救急救助総合研究所教授　山﨑　登

コーディネーター

日本消防協会会長　秋本　敏文

URL：https://youtu.be/ielPu2BqbL8
スマートフォンなどでQRコードを読み取ると、簡単にアクセスできます。

主要な内容

- 地域防災力充実強化法制定についての評価
- 立法経過、法律内容、制定後の防災政策への影響等
- 法制定後、今日までの具体的な施策内容、その評価
- 消防防災関係者及び一般国民に対する法の趣旨周知、徹底、具体的な施策、その評価
- 今後の施策のあり方
- 広域・各地域における周知徹底のあり方
- 具体的な施策のあり方

(1) 企業・団体、女性、幼少年等を含む幅広い人的体制整備、情報・環境、防災基盤、行動訓練等の具体的な施策展開
(2) 地域防災コミュニティセンター整備
(3) 総合的な施策展開、地域防災力充実強化対策に関する関係者間の協議などによる総合的な対応前進

第25回全国女性消防操法大会運営委員会
第25回全国女性消防操法大会の抽選会を開催

(公財)日本消防協会

令和５年２月22日（水）日本消防協会において、第25回全国女性消防操法大会運営委員会、及び第25回全国女性消防操法大会の抽選会が開催されました。

大会の「基本方針」について協議した結果、次のとおり決定されました。また、大会の出場順も決定しました。

第25回全国女性消防操法大会基本方針

1　目的

女性消防隊の消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的とする。

2　日時

令和５年10月21日（土）午前９時から（雨天決行）

3　会場

東京臨海広域防災公園
東京都江東区有明三丁目８番35号

4　主催

消防庁、公益財団法人日本消防協会

5　共催

東京臨海広域防災公園

6　後援

東京都、一般社団法人東京都消防協会、
東京都消防長会、東京消防庁

7　大会運営委員及び審査員

別表のとおり

8　運営方法

(1)　大会参加者
　大会参加人数及び入場者は制限しないこととするが、今後、各都道府県消防協会へ参加人員を調査のうえ、必要があれば調整することとする。

(2)　激励交流会
　大会前日に実施することとするが、今後の状況によって変更することもあり得る。

(3)　防災展・物産展
　実施しないこととする。

9　出場隊

(1)　都道府県消防協会が推薦する女性消防隊（消防団員を含む。）とする。

(2)　１隊７名とする。

10　消防操法

(1)　軽可搬ポンプ操法とする。

(2)　５人操法とする。

(3)　手びろめによる二重巻ホース１線延長とする（ホース３本）。

(4)　標的を使用し放水を行う。

(5)　収納は省略する。

(6)　操法の具体的な実施内容は、第29回全国消防操法大会における小型ポンプの操法を基本とする。

11　使用機械器具

Ｄ－Ⅰ級軽可搬ポンプ一式

12　審査

(1)　審査長は、消防庁消防大学校校長とする。

(2)　副審査長は、消防庁国民保護・防災部地域防災室長とする。

(3)　審査員は、公益財団法人日本消防協会において指名する。

(4)　審査基準は、公益財団法人日本消防協会において定める。

(5)　審査内容については非公開とする。

(6)　審査に対する苦情等は、一切受理しないこととする。

(7)　大会日において競技中に降雨等があっても審査には考慮しないものとする。

(8)　各隊の操法タイム及び総得点を公表する。

13　表彰

(1)　12位までを表彰する。

(2)　優　勝１隊
　（内閣総理大臣賞・日本消防協会会長賞）

(3)　準優勝２隊
　（消防庁長官賞・日本消防協会会長賞）

(4)　優秀賞３隊（日本消防協会会長賞）

(5)　優良賞６隊（日本消防協会会長賞）

(6)　優秀選手賞10名（日本消防協会会長賞）

14　その他

今後の状況変化に対応して、変更が必要と考えられる事態となった時は、大会運営委員会において協議する。

大会運営委員（別表）

大会運営委員長	日本消防協会理事長	三　輪　和　夫
大会運営副委員長	消防庁消防大学校校長	鶴　巻　郁　夫
〃	日本消防協会常務理事	田　中　　豊
運営委員	消防庁総務課長	門　前　浩　司
〃	消防庁国民保護・防災部地域防災室長	佐　藤　茂　宗
〃	消防庁消防大学校副校長	大　石　正　年
〃	東京都消防長会会長	清　水　洋　文
〃	東京消防庁防災部長	福　永　輝　繁
〃	東京都消防協会会長	沖　山　　仁
〃	日本防火・防災協会振興部長	福　留　早　巳
〃	稲城市女性防火クラブ会長	岩　田　光　子
〃	池袋消防団副団長	須　藤　道　子

審査員（別表）

審査長	消防庁消防大学校校長	鶴　巻　郁　夫
副審査長	消防庁国民保護・防災部地域防災室長	佐　藤　茂　宗
審査員	日本消防協会の指名する者	26名

運営委員会の様子
スケジュール

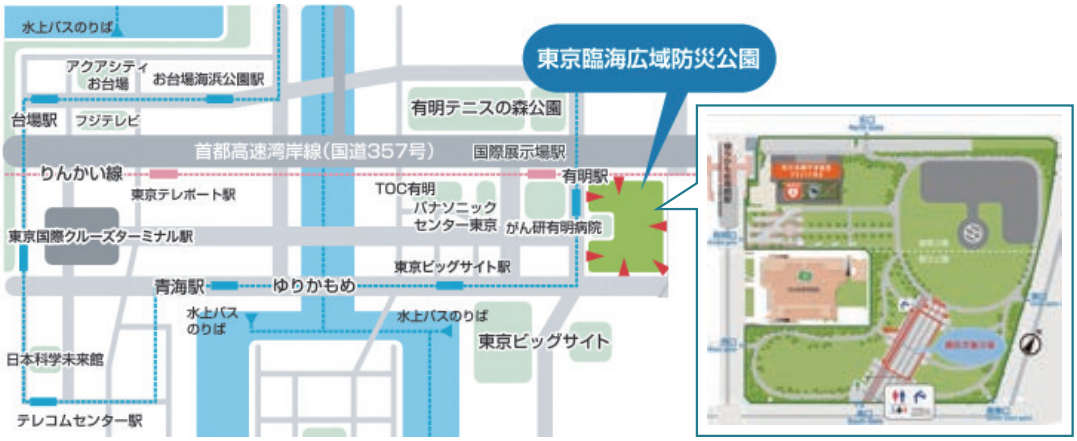
実施日	実施事項等	実施場所
2月22日（水）	大会運営委員会	日消６階大会議室
2月22日（水）	出場順位抽選会	ニッショーホール
5月25日（木） 26日（金）	審査員・業務部研修会	東京臨海広域防災公園
6月22日（木） 23日（金）	都道府県指導員研修会	東京臨海広域防災公園
8月31日（木） 9月 1日（金）	審査員研修会	東京臨海広域防災公園
9月下旬 ～10月上旬	東京都内支援消防職団員打合せ会議	未　定
10月16日（月） ～20日（金）	大会会場設営作業	東京臨海広域防災公園
10月20日（金）	大会リハーサル及び事前訓練 審査事項確認会議（審査員）	東京臨海広域防災公園
10月20日（金）	激励交流会	TFTホール
10月21日（土）	第25回全国女性消防操法大会	東京臨海広域防災公園

実施日及び実施場所については、予定であり変更する場合があります。

三輪大会運営委員長　　鶴巻審査長

第25回全国女性消防操法大会出場順

出場順	第１コース	第２コース
1	岐　阜　県	石　川　県
2	和歌山県	長　崎　県
3	京　都　府	青　森　県
4	宮　崎　県	栃　木　県
5	神奈川県	高　知　県
6	鹿児島県	大　阪　府
7	富　山　県	秋　田　県
8	福　井　県	岩　手　県
9	山　形　県	長　野　県
10	岡　山　県	茨　城　県
11	千　葉　県	兵　庫　県
12	福　岡　県	徳　島　県
13	三　重　県	北　海　道
14	熊　本　県	愛　媛　県
15	佐　賀　県	奈　良　県
16	新　潟　県	愛　知　県
17	鳥　取　県	広　島　県
18	香　川　県	山　口　県
19	埼　玉　県	滋　賀　県
20	宮　城　県	大　分　県
21	沖　縄　県	静　岡　県
22	群　馬　県	東　京　都



日本消防協会定時理事会
日本消防協会評議員会　を開催

㈶日本消防協会

令和5年3月2日(木)ニッショーホールにおいて、日本消防協会定時理事会、日本消防協会評議員会を開催しました。

議決事項等については、下記のとおりで、いずれも異議なく決議・承認されました。

なお、令和５年度事業計画については、次号でお知らせします。

議決事項

第１号議案　令和４年度収支補正予算について

第２号議案　令和５年度事業計画について

第３号議案　令和５年度収支予算について

第４号議案　令和５年度都道府県消防協会分担金について

第５号議案　日本消防協会就業規則等の一部改正について(※)

第６号議案　役員賠償責任保険契約について(※)

※第５号議案及び第６号議案について、評議員会においては理事会議決事項として報告。

報告事項

新日本消防会館の建設について

諸般の報告

(1)　今後の全国大会等の計画について

(2)　防災推進国民大会の開催について

(3)　全国消防団応援の店について

(4)　消防育英会支援自動販売機の設置状況について

消防育英会定時理事会を開催

㈶消防育英会

令和５年２月８日、ヤクルト本社ビル６階大会議室で「令和４年度消防育英会定時理事会」が開催されました。

１　議　事

第１号議案　消防育英会令和５年度事業計画及び収支予算案について

第２号議案　評議員会の招集について

第３号議案　（公財）ＪＫＡ補助事業完了時の自己評価について

２　報告事項

⑴　消防育英会奨学生及び奨学金等の状況について

⑵　消防育英会支援自動販売機の設置状況について

⑶　消防育英会ホームページのリニューアルについて

⑷　消防育英会奨学生の誌上交流会について

⑸　消防育英会税額控除証明書の更新について

※　議事については、異議なく承認されました。

消防育英会ホームページのリニューアルについて

消防育英会では令和４年12月１日からホームページを一新しリニューアルいたしました！

パソコンをはじめスマートフォンやタブレットのような様々なサイズの端末からの閲覧にも対応し、以前のものより視認性、操作性、利便性に優れたホームページになりました。

随時更新しておりますので是非ご覧ください。

https://shobo-ikueikai.or.jp/

QRコードを読取ると消防育英会のページにアクセスできます。

少年消防クラブ活動に参加してみませんか

総務省消防庁国民保護・防災部　地域防災室

○少年消防クラブとは

少年消防クラブとは、少年少女が防火及び防災について学習するための組織であり、日頃、防火パトロールや防火・防災に関する研究発表会の実施などの活動をしています。令和４年５月１日現在のクラブ数は4,150団体で、クラブ員数は約39万人です。

○主な活動

少年消防クラブの活動は、クラブによって様々ですが、主に以下のような活動が行われています。

⑴　防災マップ作り

クラブ員が自分たちの住むまち･地域を実際に歩き、消火栓の場所や災害時の危険箇所などを把握し、防災マップを作ることを通じて、地域の防災に対する理解を深めています。

⑵　防火パトロールの実施

日頃より地域の住民の方々に火災予防を呼び掛けるため、消防職員・団員等とともに、防火パトロールや防火パレードなどの防火広報活動を行っています。

⑶　研究発表（ポスター等の作成）

防火・防災に関する研究を行い、その成果をまとめたレポートやポスター、防火新聞等を作成して校内に展示したり、各家庭に配布したりして、火災予防や防火・防災意識の高揚に努めています。

⑷　防災訓練等への参加

防災訓練や防災講習会等への参加、消防署の見学・訪問等を通じ、火災の知識や地震等の自然災害が発生する仕組みを学習したり、消火栓などを使った初期消火の方法、ロープワーク、応急手当等の知識や技術を身に付けています。

⑸　防災キャンプ

主に夏休みを利用して、学校の体育館や運動場等に寝泊り（避難所体験）し、炊き出しを実施する等、日ごろ体験できない活動を通じて、仲間との連帯感を高めています。

令和４年度は、新型コロナウイルス感染防止を徹底しながら、創意工夫を凝らし活動していますが、少年消防クラブの活動は、命や暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、地域と関わりを持ち、幅広い年齢層の仲間と交流を深める機会にもなっており、人間形成や地域社会への参加の面でも大変有意義な活動です。

○消防庁の取組

⑴　優良少年消防クラブ表彰及び優良少年消防クラブ指導者表彰（フレンドシップ）

消防庁では毎年、活発な活動を行っている少年消防クラブやその活動を支える指導者に対する表彰を実施しており、令和３年度は、特に優良なクラブ20団体、優良なクラブ28団体、優良な指導者21名を表彰しました。（令和４年度の表彰式は、３月28日に都市センターホテルで開催予定）

⑵　全国少年消防クラブ交流大会

平成24年度から、毎年、将来の地域防災の担い手育成を図るため、消防の実践的な活動を取り入れた訓練等を通じて他地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに、消防団等から災害の教訓や災害への備え等について学ぶことを目的として、「少年消防クラブ交流大会」を開催しています。令和４年度は、鳥取県米子市で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

⑶　少年消防クラブの広報事業

①　少年消防クラブ加入促進イベント

少年消防クラブの認知向上を図り、加入促進するため、令和４年１月から実施した消防団員加入促進キャンペーンで好評だった芸人の和牛さんを起用し、少年消防クラブ認知向上イベント「和牛消防団と知ろう！少年消防クラブ」を全国５カ所で実施しました。

②　少年消防クラブ広報動画

消防庁では、令和４年から新日本プロレスとのコラボ企画を実施しました。その中で、浦安市少年消防団の全面協力のもと、新日本プロレスの真壁選手と獣神サンダー・ライガーさんが少年消防クラブを体験する動画を制作し、消防庁のYouTubeチャンネルに公開しました。

【動画URL：https://youtu.be/CAu-ixj4t48】

身近な生活の中から防火・防災について学ぶ少年消防クラブ活動に参加してみませんか。少年消防クラブへの参加、活動内容等については、お住まいの市役所・町役場や消防署にお問い合わせください。

少年消防クラブ加入促進イベントの様子

問合わせ先
消防庁国民保護・防災部　地域防災室
TEL：03-5253-7561

消防団等充実強化アドバイザーとの意見交換会を開催しました

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室

総務省消防庁では、全消防団員数が初めて80万人を下回る危機的な状況であることを受け、消防団等充実強化アドバイザーを招へいし、消防団員確保に関する意見交換会を実施しました。意見交換会は、東京会場と福岡会場とで２回開催し、東京会場は令和５年１月19日、福岡会場は同月25日に実施したところです。

この意見交換会において、消防団等充実強化アドバイザーから出された主な意見は次のとおりです。

なお、消防団等充実強化アドバイザーは、地方公共団体からの要請に基づき派遣し、消防団への加入促進、消防団の充実強化及び活性化等の方策等について助言を行う制度です。消防団の充実強化を検討している地方公共団体においては、ぜひ積極的に活用してください。詳細は、総務省消防庁地域防災室へお問い合わせください。

意見交換会における主な意見

（消防団運営の見直し）

○　住民に入団を訴えかけるばかりではなく、消防団自身も魅力ある消防団でなくてはならない。そのため、消防団の中で若い人が意見を言いやすい場を作るようにしていくべき。

○　消防団員がその友人に直接声をかけるなどの波及効果が期待できるため、消防団員のモチベーションを高めるような訓練や研修、意見交換会を行ってはどうか。

○　消防団員としてのスキルをもって活動できる人を増やす取組も必要ではないか。

○　消防団員は、本業を別に持っているので、長期出張や育児などの際にも辞めずにすむよう休団制度というのを前面に押し出していくべきではないか。

○　避難所開設をしたときの支援を行うなど、自主防災組織などの地域の防災リーダーと連携した取組を行っていくべきではないか。

（幅広い住民の入団促進）

○　女性団員がいない消防団が全体の1/4もあるので、消防団等充実強化アドバイザーが要望を待たずに女性消防団員の必要性や導入の方法などをアドバイスしてはどうか。

○　男女共同参画といいながら、男社会が根づいていると思われる。そこをどうにか変えていかないと、女性団員の増加はしているものの、消防団の活性化に繋がらないのではないか。

○　学生団員は、卒業と同時に辞めてしまうので、継続して消防団員に留まれる工夫が必要。

○　県立大の学生へ入団を働きかけるために、県、大学事務局、消防団が連携し、新入生のガイダンスで消防団の話をする時間をもらうことができた。こうした例を参考に連携を進めていくべき。

○　大学生への入団促進にあたって、消防職員や市町村職員の中にいる大学OBが出向いて募集する取組が有効。

○　保育士さんが消防団員になって、防災関係の知見を得たら、園児募集をかけるときのアドバンテージになるので、保育園との連携は、特に有効であると考えられる。

○　事業者や大学と連携するためには、市町村、消防本部、それから消防団員が連携しながら、一緒になって切り開くのがベストである。

○　今は、夫婦共同で育児をしているので、家族で参加できるような消防団活動を考えてはどうか。

○　地域住民が、消防団がどんなことをしているのか分からないという側面がある。そのためイベント等の機会を通じて、消防団を知ってもらう機会を設けてはどうか。

（防災教育）

○　子どもやその保護者に消防団活動を理解してもらうために、PTA活動と連携し、学校で消

防団に関する講義をするなどしてはどうか。

○　消防団員が防災教育として授業に行くと、児童・生徒の保護者で消防団員である者が多く参加している。児童・生徒からこの授業のことを聞いて、入団した人もいる。教科書に消防団についても記載するなどの施策を進めていくべきではないか。

○　ポスターなど派手な広報も必要だが、地道な加入促進や少年消防クラブや高校生にアプローチし、将来の地域防災の担い手を育てていくべき。

（消防団事務担当職員に対する取組）

○　消防団確保に貢献した市町村の担当者に対して表彰・評価する制度を創設し、逆に、消防団員を大幅に減少させた市町村を全国公開するペナルティーを科すなど、市町村の担当者が入団促進に向けて動きたくなる仕組みを作ってはどうか。

○　消防団事務担当職員間で情報交換を行えるような取組を行ってはどうか。

○　市町村や消防機関の消防団担当職員に対する教育を強化してはどうか。

（その他）

○　消防団員は、火災現場で活動するが、お酒を飲む機会が多いというような昔のイメージがあるので、そうしたイメージを払拭しなくてはならないのではないか。

○　消防団に対する財政措置を拡充しても消防団の方はほとんど知らない。消防団の組織がもう少ししっかりした組織づくりをしないといけないのではないか。

○　緊急時の対応が取りやすいよう、詰所へのWi-FiなどのICT環境を整備してはどうか。

○　消防団活動には家族の理解が不可欠であるので、家族への手当を制度化してはどうか。

消防団等充実強化アドバイザーの派遣

○概要等

地方公共団体等の要請に基づき、消防団等充実強化アドバイザーを当該地方公共団体等に派遣して、消防団への加入促進、消防団の充実強化及び活性化等の方策等について助言を行う制度。

アドバイザーは、地方公共団体等の推薦を受け、消防団の充実強化等に関する豊富な知識又は経験を有する者を認定。

○派遣実績

令和４年度：50団体、令和３年度：22団体、令和２年度：７団体、令和元年度：27団体

○消防団等充実強化アドバイザー

	都道府県	氏　名	所属団体・役職名
1	青森県	佐藤　裕貴子	(元)青森市青森消防団本団分団長
2		田中　茂子	(元)青森市青森消防団本団分団長
3	茨城県	米川　幸雄	阿見町消防団・顧問
4		山本　みゆき	(元)阿見町消防団女性部・部長
5		伊藤　好	(元)筑西広域市町村圏事務組合消防本部消防次長
6	群馬県	折茂　綾子	藤岡市消防団第10分団部長
7	千葉県	田邉　茂	長生郡市広域市町村圏組合消防団消防団長
8	神奈川県	丸山　正美	(元)横浜市消防局総務部消防団課／保土ケ谷消防団本部アドバイザー
9		堀下　清美	(元)横浜市消防局女性消防団員指導者
10	新潟県	丸山　洋太郎	長岡市消防団本部副分団長
11	長野県	五十嵐　幸男	公益財団法人長野県消防協会参与
12	愛知県	加藤　實	成蹊大学非常勤講師
13	三重県	櫻川　政子	津市消防団津方面団デージー分団分団長
14	大阪府	大森　良男	(元)堺市消防局・堺市高石消防署署長
15	岡山県	左居　喜次	(元)美咲町消防団長
16		葛原　佳史	美咲町消防団員
17	広島県	神村　登紀恵	広島市西消防団副団長
18		柳迫　長三	一般社団法人ひろしま防災減災支援協力代表理事 広島市防災士ネットワーク代表世話人 (元)広島市消防局職員
19		平田　信夫	(元)広島市安佐南消防団団長
20		勝宮　章	(元)呉市消防局長
21	愛媛県	石丸　ちえみ	松山市消防団部長
22		玉井　公	松山市消防局地域消防推進課主幹
23	福岡県	太田　和弘	北九州市若松消防署警防課警防第三担当課長
24		内村　美由紀	北九州市八幡東消防団副団長
25	熊本県	長濱　美香	平国女性分団団員(ラッパ隊長)

問合わせ先
消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室
TEL：03-5253-7561

外出先で地震にあったら

総務省消防庁国民保護・防災部防災課

地震が発生したとき、身の安全を確保するには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をとることが極めて重要です。そのためには、日ごろから皆さんが地震に対して正しい心構えを身につけておくことが大切です。

今回は、特に外出先で地震にあった場合の適切な行動を取り上げてみます。

1 住宅地

強い揺れに襲われたら、住宅地の路上では落下物や倒壊物に注意しましょう。

- 住宅地の路地にあるブロック塀や石塀は、強い揺れで倒れる危険があります。揺れを感じたら塀から離れましょう。
- 電柱や自動販売機、耐震性能の低い住宅が倒れてくることがあります。そばから離れましょう。
- 屋根瓦や二階建て以上の住宅のベランダなどに置かれている物が落下してくることがあります。頭上からの落下物に注意しましょう。

2 オフィス街・繁華街

中高層ビルが建ち並ぶオフィス街や繁華街では、窓ガラスや外壁、看板などの落下物に注意しましょう。

- オフィスビルなどの窓ガラスが割れて落下すると、広範囲に拡散します。ビルの外壁や貼られているタイル、外壁に取り付けられている看板などが落ちることもあります。鞄などで頭を保護し、できるだけ建物から離れましょう。
- デパートなどの建物の中にいる場合には、陳列棚の商品や装飾品などが落下する危険性があります。揺れを感じたらすぐに離れましょう。
- エスカレーターは、急停止することがあります。急停止した際の反動に備えて、普段から手すりを掴むよう習慣づけておきましょう。
- エレベーターは、全ての階のボタンを押し、最初に停止した階でおりるのが原則です。また、閉じ込められた場合は、焦らず冷静になって「非常用呼び出しボタン」等で連絡を取る努力をしましょう。

3 海岸付近

海岸付近で、強い揺れや弱い揺れであっても長い時間ゆっくりとした揺れに襲われたら、一番恐ろしいのは津波です。避難指示を待つことなく、直ちに避難しましょう。

- 強い揺れを感じたとき、または弱い揺れであっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき、揺れを感じなくても津波警報等が発表されたときは、直ちに海岸付近から離れ、急いで高台や津波災害に対応した指定緊急避難場所などの安全な場所へ避難しましょう。
- 携帯電話やスマートフォン、ラジオなどを活用し、気象庁が発表する大津波警報や津波警報・注意報や、市町村が発令する避難指示といった津波に関する情報を入手しましょう。
- 津波は繰り返し来ます。第１波が小さくても後から来る波の方が大きい場合があります。いったん波が引いても大津波警報や津波警報、津波注意報が解除されるまで、海岸付近には絶対に戻ってはいけません。

4 川べり

川からできるだけ遠ざかりましょう。

- 津波は川を遡ります。
- 流れに沿って上流に避難しても津波が追いかけてくるので、川からできるだけ遠ざかるようにしましょう。

5 山・丘陵地
落石に注意し、急傾斜地など危険な場所から遠ざかりましょう。

- まず、落石から身を守りましょう。
- 山ぎわや急傾斜地では、山崩れ、がけ崩れが起こりやすいので、すぐに離れましょう。

- 揺れが収まった後も、崩れやすくなっている可能性があります。近づかないようにしましょう。

6 自動車の運転中
徐々にスピードを落として道路の左側に停車しましょう。

- 急ブレーキは禁物です。ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車しましょう。
- 停車後は慌てて車外に飛び出さず、携帯電話やスマートフォン、カーラジオなどで災害情報を収集しましょう。
- その場に自動車を置いて避難する場合は、緊急車両等の通行の妨げとなった際に速やかに移動させる必要があるため、車のキーはつけたままにし、ドアをロックしないで、避難しましょう。
- 高速道路の場合はハザードランプを点灯させましょう。なお、高速道路は1kmごとに非常口が設けられており、ここから徒歩で地上に脱出できます。

7 鉄道等の公共機関に乗車中
座席に座っている場合は頭部を守る姿勢をとり、立っている場合は転倒しないようにしましょう。停車後は乗務員の指示に従いましょう。

- 急停車する場合があるため、座席に座っている場合には、低い姿勢をとって頭部を鞄などで保護し、立っている場合には手すりやつり革をしっかり握って転倒しないようにしましょう。
- 停車後は、乗務員の指示に従いましょう。
- 地下鉄の場合、高圧電線が線路脇に設置されていることがあるため、勝手に線路に飛び降りないようにしましょう。

日本消防協会からのお知らせ

ぼうさいこくたい2023（第8回防災推進国民大会）
開催日：令和5年9月17日（日）・18日（月・祝）

産学官、NPO・市民団体や国民の皆様が日頃から行っている防災活動について、全国的な規模で発表し、交流する日本最大級の防災イベントです。今年は、関東大震災の震源地である神奈川県で開催し、様々な参加団体のイベント・催しを体験しながら、一緒に防災意識を高めていきましょう。

2023年 関東大震災100年

～関東大震災から100年～

関東大震災は、相模トラフを震源とする海溝型地震です。

大正12年（1923年）9月1日11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大地震が発生しました。この地震により、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道道南から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5から震度1を観測し、10万棟を超える家屋を倒潰させました。また、発生が昼食の時間と重なったことから、多くの火災が発生し、大規模な延焼火災に拡大しました。

この地震によって全半潰・消失・流出・埋没の被害を受けた住家は総計37万棟にのぼり、死者・行方不明者は約10万5000人に及ぶなど、甚大な被害をもたらしました。

東京での大火災による被害があまりに大きかったために、東京の地震だと思われている方が多いですが、神奈川県から千葉県南部を中心に震度7や6強の地域が広がっており、その範囲は、1995年の阪神・淡路大震災の10倍以上に達します。

関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
1923年9月1日（土）午前11時58分	1995年1月17日（火）午前5時46分	2011年3月11日（金）午後2時46分

引用：内閣府防災情報のページ「関東大震災100年」特設ページ
※QRコードを読取ると内閣府防災情報のページにアクセスできます。

一般公開のお知らせ

消防庁消防研究センター

消防研究センター、消防大学校、日本消防検定協会及び一般財団法人消防防災科学センターでは、令和5年度の科学技術週間にあたり、研究開発や消防用機械器具の紹介等を目的として一般公開を行います。

今年度は、４年ぶりに実開催（敷地内の施設の公開や実演等）を行う予定であり、加えて、令和３年度に初めて行ったオンライン開催も予定しています。

なお、これらの内容については消防研究センターホームページにて最新情報のご確認をお願いいたします。

１　実開催（予定）

⑴日時

令和５年４月21日（金）
　　10：00 ～ 16：00（入場無料）

⑵場所（受付：消防研究センター本館）

ア　消防研究センター、消防大学校
　　（東京都調布市深大寺東町４-35-３）

イ　日本消防検定協会
　　（東京都調布市深大寺東町４-35-16）

※ア及びイは同一敷地内にあります。

⑶実開催で予定している公開内容

軽油の燃焼実験、災害時の消防力・消防活動能力向上に関する研究開発の紹介、石油タンクの安全性に関する研究開発の紹介、原因調査室の業務紹介

※公開内容については変更となる可能性があります。

⑷交通機関

ア　JR中央線吉祥寺駅南口から　バス約20分
　　６番乗り場：「深大寺」「野ヶ谷」
　　「調布駅北口」行き
　　〔消防大学前〕下車

イ　JR中央線三鷹駅南口から　バス約20分
　　８番乗り場：「野ヶ谷」行き
　　〔消防大学前〕下車
　　７番乗り場：「晃華学園東」行き
　　〔中原三丁目〕下車
　　徒歩５分

ウ　京王線調布駅北口から　バス約18分
　　11番乗り場：「杏林大学病院」行き
　　〔中原三丁目〕下車
　　徒歩５分

２　オンライン開催（予定）

⑴日時

令和５年４月14日（金）10：00
　　～４月24日（月）16：00

⑵開催ページ（アクセスURL）

消防研究センターホームページ
（http://nrifd.fdma.go.jp/ ）
「消防研究センター一般公開」
でも検索できます。

⑶オンライン開催で予定している公開内容

【消防研究センター、消防大学校】

救急車・指揮車用パンク対応タイヤ、身近な材料で作った燃焼区画による机上実験、原因調査技術に関する研究の紹介、消防大学校での教育訓練（ホットトレーニング）

【日本消防検定協会】

検定制度と検定の方法、検定品目の紹介、受託評価業務の紹介、型式試験（感知器、受信機、金属製避難はしご、緩降機）

【消防防災科学センター】

過去の災害から学ぶ（災害対応を体験した市町村長の体験談）、防災訓練を学ぶ（各地で取り組まれている防災訓練の様子・防災図上訓練の解説）

３　問い合わせ先

■消防研究センター　研究企画室
電話　0422-44-8331（代表）
ホームページ　http://nrifd.fdma.go.jp/

■消防大学校　教務部
電話　0422-46-1712（直通）
ホームページ　http://fdmc.fdma.go.jp/

■日本消防検定協会　企画研究部情報管理課
電話　0422-44-7471（代表）
ホームページ　http://www.jfeii.or.jp/

■一般財団法人消防防災科学センター　総務部
電話　0422-49-1113（代表）
ホームページ　https://www.isad.or.jp/

令和５年度消防防災科学技術賞の作品募集

消防庁消防研究センター

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学に関する論文及び原因調査に関する事例報告の分野において、優れた業績をあげた等の個人又は団体を消防庁長官が表彰することにより、消防防災科学技術の高度化と消防防災活動の活性化に資することを目的として、「令和5年度消防防災科学技術賞」の作品募集をいたします。皆様の一層のご応募をお待ちいたしております。

詳細は、消防研究センターホームページ（http://nrifd.fdma.go.jp）をご覧ください。

【応募区分】

■消防職員・消防団員等の部

A．消防防災機器等の開発・改良

B．消防防災科学論文

C．消防職員における原因調査事例

■一般の部

D．消防防災機器等の開発・改良

E．消防防災科学論文

【応募受付期間】

令和5年3月30日（木）～ 4月20日（木）

※4月20日（木）の消印有効

【表彰】

優れた作品には、11月に行われる表彰式（東京都内）において、消防庁長官より表彰状及び副賞を授与します。

表彰件数は次のとおりです。

●優秀賞

■消防職員・消防団員等の部

A．消防防災機器等の開発・改良　5件以内

B．消防防災科学論文　5件以内

C．消防職員における原因調査事例　10件以内

■一般の部

D．消防防災機器等の開発・改良　5件以内

E．消防防災科学論文　5件以内

●奨励賞

消防防災機器等の開発・改良、消防防災科学論文及び原因調査事例　3件以内

・6月頃に、応募作品の「概要」が消防研究センターホームページで公開されます。

・受賞作品は、9月頃に決定・発表される予定です。

問合わせ先
消防庁消防研究センター　研究企画部
TEL：0422-44-8331（代表）
E-mail：hyosho_nrifd8@soumu.go.jp

活動事例

深川消防団・東京消防庁深川消防署「富岡八幡宮」で一斉放水

東京都　深川消防団・東京消防庁深川消防署

深川消防団及び東京消防庁深川消防署は令和５年１月26日、江東区富岡1丁目の「富岡八幡宮」で消防演習を実施しました。本演習は文化財防火デーに合わせて実施したもので、災害時の文化財保護を目的に、富岡八幡宮の自衛消防隊と深川消防団、深川消防署の３団体、約50名が参加しました。

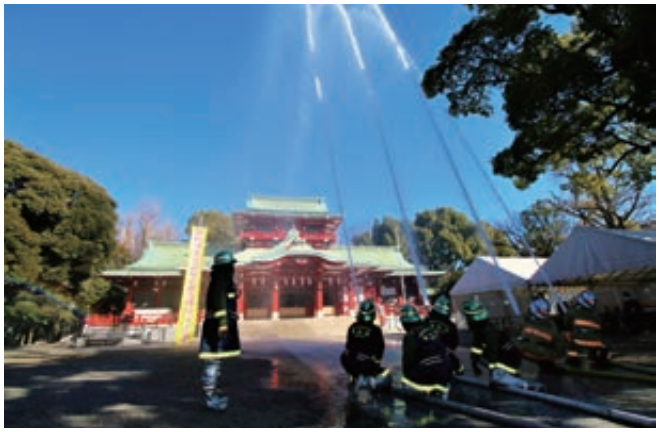
演習は地震により本殿から出火した想定で実施され、自衛消防隊による初期消火や119番通報、避難誘導、文化財の保護が行われた他、消防団と消防隊は連絡を取り合い、担当部署を決め、効果的な水利部署、送水、消火などを行い、演習を通じて各所で連携強化が図られました。

演習の最後に消防隊と消防団による一斉放水が行われると、青空に向けて伸びる水柱の美しさに参拝に訪れた方々の多くが足を止め、境内は大歓声に包まれました。

富岡八幡宮の禰宜、長谷氏は「文化財防火デーは、自衛消防隊の災害時の対応を確認するよい機会となった。また、演習を通じて自衛消防隊と消防隊、消防団が一体的に活動できたことは素晴らしい。今後も災害に備えるための取り組みを継続したい。」と述べるなど、消防演習参加者は歴史ある深川の町を災害から守り、貴重な文化財を未来に継承していきたいと決意を新たにし、消防演習は幕を閉じました。

自衛消防隊による初期消火

消防演習講評



消防隊と消防団による一斉放水

消防隊の消防演習

うちの名物団員

秋田県

大館市消防団　団長

齋藤　勉

大館市消防団齋藤勉団長は、58歳から秋田内陸100キロマラソン大会にチャレンジし、これまでに７回完走、10回完走者に贈られるクリスタルメダルをねらう、現役100キロマラソンランナーです。今年は、50回記念大会となるホノルルマラソンに参加し、完走メダルを獲得しました。

また、現在72歳ですが、深夜でもほぼ100％の確率で現場へ直行し、指揮を執るパワフルリーダーです。団長として５年目になりますが、消防団員53年という豊富な経験と、消防団への情熱を持ち続け、第一線で奮闘し、地域住民の安心安全を守っています。

宮城県

栗原市消防団　副団長

菅原　幸一

栗原市消防団からは菅原幸一副団長を紹介します。

能面作家として活動しており、ドラマ「金田一少年の事件簿」の宣伝ポスターに３点の能面が使用されたほか、舞台でも多くの能楽師に使用されております。

また、自ら作品を制作するのみでなく、能面教室も開催しており、後世に向けた制作技術の伝承にも力をいれております。

石川県

金沢市第二消防団　団本部　団員

東（あずま）　楓

金沢市第二消防団からは団本部の東楓団員を紹介します。

その可愛らしい女の子が入団したのは４年前。入団理由は、「父親も叔父も分団員であり、大変ながら誇り持って頑張っている姿が楽しそうに映っていたから。」だと。いつも笑顔で活動に参加している姿が父親譲りなのかなぁと思います。

その子が一年後にはお坊さんのお嫁さんになり、なんとその旦那様を分団員として引き込んだのです。（笑）一児の母となり去年は旦那様の操法の応援をしていた姿が素敵でした。これからも笑顔で色々と挑戦してくれると期待しています。

岐阜県

海津市消防団　部長

片野　治樹

海津市消防団からは、片野治樹部長を紹介します。

片野部長は平成９年に海津市消防団へ入団し消防団活動しており、分団長を歴任し長きに渡り消防団活動にご尽力いただいています。

片野部長の日常は園芸を営んでおり、また、令和３年からは海津市の市議会議員に籍をおいています。多忙な毎日を過ごす片野部長は消防団員として地域の安心安全のため、海津市消防団活動に力を注ぎ支え続けています。

また、市民への啓発活動へも力を注いでいただいており、市民の皆さんからも信頼の厚い自慢の片野部長。

今後も海津市の安心安全ために、益々のご活躍を願っております。

愛媛県

愛南町消防団　内海方面隊　第２分団　団員

兵頭　重徳

愛媛県愛南町消防団からは兵頭重徳団員を紹介します。

兵頭団員は、砲丸投げの選手として愛媛マスターズM35・M40・M50クラスの歴代最高記録を保持し、2017年にはアジアマスターズ選手権で優勝するなど、腕力に優れた団員です。さらに、魚の調理も得意で、シーフードジュニアマイスターの資格を持ち繊細な包丁さばきも出来る、超腕自慢な団員です。その、『腕力・器用な手先』で地域の防災に貢献しています。

福岡県

北九州市門司消防団　本部　分団長

城田　美絵

「九州の玄関口の街」北九州市門司消防団からは、城田分団長を紹介いたします。

昭和63年に北九州市で女性消防団が発足し今年で35年。初期メンバーの城田分団長を先頭に現在25名の女性消防団員をまとめており、日頃は屋内外広告業を営み、団員募集促進チラシのデザインや平成10年福岡開催の全国女性消防団員活性化大会でのポスターデザインなど職業を活かし貢献していただいています。

いつも笑顔が素敵で団員からの信頼も厚い城田分団長、今後も活躍に期待しています。

消防団の広場

福岡県「愛する門司の安全・安心のために」

北九州市門司消防団
団長
髙田　年男

北九州市は、福岡県の北部、九州最北端に位置し、関門海峡を挟んで本州と九州を結ぶ海陸交通の玄関口となっているまちです。昭和38年に門司、小倉、若松、八幡、戸畑の５市が対等合併し、九州で初めて、全国では６番目の政令指定都市として誕生しました。

北九州市の消防団は、歴史ある消防団で、その始まりは江戸時代に遡ります。昭和49年に北九州市の行政区再編成に伴い、北九州市消防団の体制は、門司消防団、小倉北消防団、小倉南消防団、若松消防団、八幡東消防団、八幡西消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の８団69分団の体制となり、現在に至ります。

また、地域と密着して親しみある消防団を目指し、昭和63年には女性消防団員が結成されました。

現在、門司消防団は、団本部を筆頭に11分団７支部で組織されており、338名の消防団員で構成されています。そのうち、女性消防団員は26名在籍しています。

門司消防団は「梯子操法」・「腕用ポンプ」を伝統として、消防出初式や各種イベントで披露しています。中でも、女性消防団員のみで行う「女組（めぐみ）梯子操法」は、全国でも珍しく、祭や地域行事に積極的に参加し、地域との交流を図っています。

ほかにも多方面で活躍中の門司消防団ですが、社会現象になっている少子高齢化に伴い、現在消防団員数が減少傾向にあります。

その状況を解決するため、髙田団長が声を上げ、消防団員入団促進のための委員会を立ち上げました。委員会では様々な意見が上がる中、現在は団員募集を促す動画（DVD）を作成するためのプロジェクトチームを結成し、活動しているところです。

動画作成後は、YouTube等に投稿する予定ですので、みなさんに披露できる日も近いと思います。

女性消防団員　梯子操法

2022年度　全国統一防火標語

「お出かけは　マスク戸締り　火の用心」

編　集　後　記

第75回日本消防協会定例表彰式は、私が所属する総務部企画担当が企画立案し、主担当の長野県からの派遣者（H.Y）、副担当の愛知県からの派遣者（N.T）が、抜群のチームワークを発揮し新たな事にも積極的に取り組んでいるのが印象に残りました。これは、仕事に対する強い信念を持って接しているからこそだと思います。私は、式典前のリハーサル担当としてステージでマイクを握り、人前で喋るのは緊張しましたが、任務を全うすることができました。

これも無事に式典を終えることができたのは、皆様方のご支援とご愛顧によるものと、総務部企画担当一同、心から感謝いたしておりますとともに、不慣れなことで不行き届きの点が多々ございましたこと心よりお詫び申し上げます。

最後に、私は今月号で担当を終え大阪府のとある消防に戻ります。機関紙「日本消防」の発刊にご協力いただきまして、この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。（T.K）

東京の今年の週末は比較的暖かく、週末ごとにきれいな梅の花を随分と堪能できました。

次は、桜の開花を迎えていきますが、当協会の令和5年度の各種事業計画や予算等も承認され、令和5年度を迎える準備もいよいよ本格化です。（Y.T）

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※　年間購読料（送料込）　2,496円

（問合せ先）　　総務部企画担当　03−6263−9401

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けしています。　　kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十六巻第三号
令和五年三月五日印刷
令和五年三月十日発行

編集人　田中　豊
発行所　(公財)日本消防協会
東京都港区東新橋一−一−十九
電話　〇三(6263)九四〇一(代)
印刷所
東京都中央区銀座七−一六−二一
株式会社アイネット
電話　〇三(3549)五六〇〇

消防人の
火災共済

地震等災害見舞金もあります

消防団員・消防職員ならどなたでも加入できます

掛金25口、2,500円（56%以上の焼損）
火災共済金375万円のお支払い **1500倍補償**

B型火災共済 消防団 消防本部 毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。
落雷の損害にも対応!! 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。
お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。

お支払対象
- ●火災共済金　火災・落雷・爆発・破裂
- ●風水雪害等共済金　風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等
- ●地震等災害見舞金　地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会　TEL 03−6263−9822
詳しくはホームページをご覧ください http://www.shouboujin.or.jp/

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた計画的な財産形成が可能です。	月払の場合、毎月一万円（ゆうちょ銀行は五千円）からご加入いただけます。	給付金の受取りは、年金（6種類）又は一時金からご選択いただけます。
途中で脱退しても、積立金（脱退一時金）が受け取れます。	税制適格コースは個人年金保険料控除自由選択コースは一般の生命保険料控除の対象となります。	消防団員、消防職員の退団・退職後も継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）
公益財団法人　日本消防協会　年金共済部
0120−658−494　平日 9:00〜17:00

お問い合せ先　各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会
(公財)日本消防協会　〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル内
TEL.(03)6263-9401（代表）
https://www.nissho.or.jp

毎月一回十日発行
令和五年三月十日発行
日本消防
第七十六巻第三号
公益財団法人日本消防協会